

2021年度助成金交付団体一覧

スタートアップ助成

ID	団体名	代表者氏名	事業名称	事業決算額	確定交付額	ページ
1-1	フクシマを忘れない会	高橋喜宣	「今こそフクシマに学べ」原発事故 楽習会 一小学生から大人まで 大集合ー	132,740	100,000	1
1-2	森展の会	森山来妙	森展	156,145	100,000	2
1-3	ふるさとファーマーズ	石井雅俊	畑イベント事業	173,947	100,000	3
1-4	ホッとスペース和	山田千鶴	居場所づくり	100,531	99,603	4
1-5	16mm映写機の会	金田芳也	16ミリ映写機とフィルムを使って地 域で子供向け映画上映会を開こう	132,423	100,000	5
1-6	まめつつ	石山美行	がん患者・がん経験者向け運動推 進	151,378	100,000	6
1-7	防災マインド・アンド・マネ ジメント	五味 篤	防災マインドを育成する研修・訓練 と防災に関する活動のマネジメント	116,215	100,000	7
1-8	ジェンクロス・カワサキ	岡田恵利子	世代を超えてジェンダー平等を考える 地域活動	108,112	100,000	8
1-9	TAMA VOICES	熊谷薫	たまアートカフェ	133,129	100,000	9
1-10	ひつじの会	齊藤宜子	発達に凹凸がある子を育てる保護 者のためのコミュニティ	120,736	100,000	10

ステップアップ30助成

ID	団体名	代表者氏名	事業名称	事業決算額	確定交付額	ページ
2-1	かわさき民話を愛する会	萩坂心一	川崎の民話のルーツを探るー講演 記録とフィールドワーク	140,091	105,000	11
2-2	かわさきミュージックチャレ ンジ	小林貴子	第2回誰でもチャレンジコンサート	150,727	120,000	12
2-4	かわさきハワイアンフェス ティバル実行委員会	遠藤久乃	かわさきハワイアンフェスティバル 2021	987,623	300,000	13
2-6	戸張一座	戸張真紀	戸張一座	470,168	300,000	14
2-7	桂 ～新生児の肌着作りの会～	森真佐乃	妊婦さんのための新生児の肌着を つくる会	215,072	163,000	15
2-9	なかはらミュージカル実行 委員会	奥平亨	ミュージカル体験ワークショップ	477,741	300,000	16
2-10	こどものまちミニカワサキ 実行委員会	大城英理子	こどものまちミニカワサキ運営会 議、こども会議	395,249	300,000	17
2-11	一般社団法人カノンパート ナーズ	今川貞治	アクティブシニア向け「健幸アップ 体操」(トレーニング・リハビリを中 心に)	965,190	300,000	18
2-12	ダンスンブル Dancensemble	藤平真梨	ダンスを通しての世代間を超えた コミュニティ形成へのきっかけ創り	590,263	300,000	19

2021年度助成金交付団体一覧

ステップアップ100・200助成

ID	団体名	代表者氏名	事業名称	事業決算額	確定交付額	ページ
3-1	みやまえエコー	西尾有紀	音訳ボランティア	146,085	100,000	20
3-2	NPO法人なかよしの花	甲田賢一	地域と共に歩む交流イベント及び地域貢献事業	252,904	180,000	21
3-3	おと絵がたり	加藤妙子	地域や日本の昔話をおと絵がたりの動画で川崎から世界に発信する事業	316,646	250,000	22
3-6	NPO法人はたらくらす	石渡裕美	「やってみたい！」が「できた！」 「わかった！」になる探求学習プロジェクト	1,027,220	810,000	23
3-8	神奈川骨髄移植を考える会	村上忠雄	医療用ケア帽子「コットンキャップ」	252,647	188,800	24
3-9	認定NPO法人フリースペースたまりば	西野博之	コロナ禍における子ども・若者・その家族のための交流拠点づくり	1,289,579	1,000,000	25
3-12	川崎盛盛祭実行委員会	田村寛之	川崎盛盛祭	282,821	226,256	26
3-13	川崎市アマチュア無線情報ネットワーク	榎本武	災害による大規模停電時でも、アマチュア無線で繋がる安心安全（川崎市アマチュア無線非常通信	44,472	35,577	27
3-14	モモの会	相澤ミチ子	傾聴電話モモの会	284,571	201,947	28
3-16	みんなのさいわい	三宅達夫	NPO・地域団体へのプロジェクト型中間支援	218,433	173,598	29
3-18	二ヶ領用水クリーンアップ協議会	増淵喜久雄	二ヶ領用水一斉清掃2021	379,297	303,437	30
3-20	NPO法人多摩川エコミュージアム	松井隆一	親子で多摩川の流れと自然を感じ取るラフティングボード体験会の実施(5月～9月)	900,413	720,330	31
4-1	かわさき子どもの権利フォーラム	山田雅太	子どもの権利条約フォーラム2021inかわさき	3,111,731	1,820,000	32
4-2	一般社団法人ピッカ	岩永浩二	児童養護施設と周辺地域に於ける文化芸術ダンス及びアート&ミュージックの定期学習と発表会事業	2,103,266	1,460,000	33
4-3	いろえんぴつプロジェクト	堤真理子	いろえんぴつ劇場「学校の体育館がみんなの劇場になる日」	1,813,485	1,250,000	34

コラボ50助成

ID	団体名	代表者氏名	事業名称	事業決算額	確定交付額	ページ
5-1	リボーン プロジェクト	葉倉峰雄	リ・ボーン ワークショップ-不用な端材「新」を使った工作ワークショップ	622,142	490,000	35
5-3	街ナカアート2021	横井史恵	”誰もができるアート体験”街ナカアート2021	680,526	500,000	36
5-4	農業×保育 農保連携事業	山田貢	畑の仕掛け絵本～農×産×学×保の食育プロジェクト～	789,000	500,000	37
5-5	西暦2020年の多摩川を記録する運動 実行委員会	山道省三	西暦2020年の多摩川を記録する運動～ヒトは多摩川で何をしているか？～斉市民調査～	702,698	500,000	38
5-6	さんごのからだ	山崎愛美	妊娠・出産が女性の体力・身体機能に関わる影響の検証～体力測定を用いて～	417,152	333,000	39

2021年度助成金交付団体一覧

U-25チャレンジ応援助成

ID	団体名	代表者氏名	事業名称	事業決算額	確定交付額	ページ
6-1	かわさき若者会議広報委員会	那須野純花	川崎市における若者の連携・連帯の実現	56,594	56,594	40
6-2	川崎ワカモノLab	羽賀優希	地域と若者を繋ぐきっかけ作り	60,386	60,000	41
6-3	起立性調節障害への理解を広める活動	佐々木はるか	起立性調節障害への理解を広める活動	42,910	42,910	42

団体名	フクシマを忘れない会
事業名	「今こそフクシマに学べ」原発事故楽習会 ―小中学生から大人まで大集合―

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> ・原発事故から11年、原発事故が風化 ・マスコミ報道には、津波や地震ことは多く報道しているが、長期化する原発事故の報道が少ない。 ・フクシマに30数回訪問してきた現実の風景を知らせたい ・アニメ映画ならオール世代にアピールできる。 ・親子、お孫さんとの参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オール世代が参加 ・親子での参加 ・講座だけでなく、参加型 ・原発を楽しく楽習 ・マスコミにアピール（今までの関係者記者にアピール） 読売新聞、東京新聞、神奈川新聞、タウンニュー中原版に楽習会についての記事が紹介された。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ・オール世代が参加、原発事故の悲惨さを少しでも知ってもらった。 ・映画では、・・・私が当日そこにいたかのように具体的に感じることができました。（映画の）印象は残り続けます。又、何度も観たいなあと思いました。 (40才代女性) ・初めて原発事故のおそろしさを知りました。 (70才代) ・全国にもこの活動をすべきだと思います。そしたら、世界のみんが東日本大震災を知ることができると思います。 (小学5年生) アンケートから 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を維持できず、崩壊 ・途中で主要スタッフの離脱 「解釈と趣旨が全く異なるので、「フクシマを忘れない会」を脱会させていただきます」(原文のまま) ・活動を他団体と協力して、細々継続していく。 3/11 溝の口駅前自由通路 写真展・絵画展実施 (主催 NPO法人ピアたちばな) 今後 5/29 公害フェスタにパネル展 6/4・5 平和の集いにパネル展 9/4 高津区市民活動見本市どんなもんじゃ祭り 講演とパネル展



参加型・ポストイット利用(コロナ禍のため)



シリアルな問題でも、笑顔で対話



2回目小学生向けの学習会に親子が参加

団体名	森展の会
事業名	森展

<p>目的・背景</p> <p>多摩美の山トラストの会が役目を終え解散することになり、麻生区多摩美地区の里山の保全活動の一環として行っていたイベント事業を引き継ぐために発足された。親子の育健全成のため、自然の中で親子で楽しめる場を提供すること、また親子の自然保護への関心を促したり、子育て以外の世代との交流につなげるための活動を行うことを目的としている。</p>	<p>事業の効果</p> <p>アンケートより抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 森展のようなイベントを 開催することで、私のように森のことを全く知らなかった人にも伝わるなあ、子供達にも残していきたいなと感じることができました。 ● 自然の中で様々なアートに触れることができ、画廊などとは違う開放的な美味しい空気の中でも感動しました。未来を担う子どもたちのためにもこんなに楽しめるイベントを是非続けていただきたいと思います。
<p>実施結果</p> <p>毎年 100 人～150 人の参加者でしたが、今年は 500 人以上の参加があり。子育てを中心とした方の参加と多世代、他地域の初めての参加者が多く参加した。</p> <p>アンケート結果。親子参加が全体の 52.1%。初めての参加が全体の 83.3%。親子 38 組が親子で一緒に楽しめましたか？の回答に満足度 100%と回答。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>初年度は、親子で遊べる自然の場を提供することを目的としたが、今後は参加した親子が自分で考え自由に表現できるようになるまでを目指したい。また、自然保護への関心を促し、多世代交流につながることも目的として活動を広げたい。</p>



森を使ったアート展示



みんなで描く大きな絵を描く親子



多世代でアートを楽しみました

団体名	ふるさとファーマーズ
事業名	畑イベント事業

目的・背景	事業の効果
<p>コロナで一時期、ロシアをはじめ十数か国から、食品輸入がストップしてしまい、自給率が特に低い(12%)小麦関連の商品は軒並みスーパーから姿を消してしまった。これから予測できない事態や問題に対処するためにも、川崎市から【自分たちの食べるものは自分たちで作る】この考え方を発信。たくさんの川崎市民の方々に理解していただくため、まずは自ら畑に立ち、理解者を増やしながらか普及活動を行い食料自給率の向上へ貢献して参ります。</p>	<p>登戸小学校教諭中山先生から直接連絡が入り、「登戸小学校5年1組は、これから自給率の授業があるのですが、文部科学省の出している教科書には、農家さんの思いや今後どんなことを考えているのかが書かれていません。是非授業をしていただけませんか？」とオファーを頂きました。実際に授業中に学校と畑をテレビ電話をつなぎ、【自分たち食べ物は海外に頼らず、自分たちで作っていく】という自給率の話行いました。その結果、子供たち自身が自ら冬休みを使い畑に来たいということで、クラスの1/3が実際に畑に訪れ畑作業をしていただきました。～アンケートより感想抜粋～ 大根や小松菜の収穫が楽しかった・また来て収穫をいっぱいしたいです・農業の大変さが分かった。以上のことから、川崎の未来に安心安全な食をという方向に繋げるという第一歩になりました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>畑イベント事業</p> <p>●川崎市市民来園者アンケート調査結果</p> <p>川崎市13名、幸区12名、中原区14名 高津区16名、宮前区13名、 多摩区23名、麻生区12名 合計103名</p> <p>満足度 大変満足 92%</p>	<p>今回の事業実地を行ない、神奈川新聞やタウンニュースに本事業を取り上げていただいたことにより、予想を超える大きな反響があり、畑の小ささや、スタッフの少なさなどから援農希望に対応できず、お断りしてしまうケースが発生してしました。また車いすの方や、お年寄りの方などは畑が駅から離れているため、ご不便をおかけしてしまったというも実状です。</p> <p>上記を踏まえ、次年度以降は畑の規模を拡大(30㎡を1500㎡)、スタッフ確保のためアルバイト代の予算をつけ人員確保、レンタカーをレンタルし送迎を行い、小さなお子様、障害をお持ちの方、高齢者の方、どんな方でも一人でも多くの川崎市民の皆様、農業や第一次産業に注目してもらうため、気軽に畑にきていただく環境を整備して参ります。そして川崎市の皆様が食や農業、自給率を考える場としてのモデルケースを構築します。</p>



初めて種まきする川崎の子供たち



無農薬で栽培した小松菜



登戸小学校5年1組課外授業

団体名	ホットスペース・和
事業名	食事つき居場所づくり

目的・背景	事業の効果
<p>本市は「子育て世代の多いまち」としての特徴があり、当地域も例外ではなく核家族が増え共働き世帯も増加しておりシングル世帯も散見される。これらの状況は、子どもの孤食や子育ての孤育てにつながっている要因のひとつとして考えられる。</p> <p>地域に、子どもや子育て中の保護者が安心して集えるような「居場所」を開室して「孤食」や「孤育て」の状況を軽減できるような支援をしていく。</p>	<p>3 回のみ居場所の開室だったが、子どもからの「今日は、お部屋で遊べないの?」といった声や、保護者からは「仕事で疲れて、週に一度は夕ご飯をコンビニ弁当と決めていたのでとても助かります」「今夜はいつもより多く絵本を読み聞かせてあげます」「学校の行事や授業参観が分散だからママ友と会えない」「おしゃべりする場が必要と思っている」といった声が聞かれた。計画していたような活動はできなかったが、安心して過ごせる居場所は子どもも大人も必要としていることは実感することができた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナ感染状況を見極めながら、会食とお弁当のテイクアウトを選択しながら活動を進めてきた。緊急事態宣言や感染リスクを考えて居場所を開室できたのは 3 回のみとなりコロナ禍での「食事つき居場所」の活動の厳しさを実感できたと同時に、コロナ禍だからこそその必要性も強く感じながら中止にすることはやめようという思いからの活動だった。</p> <p>毎回の利用者目標を 30 人と設定していたが、利用者平均は 37 名となり目標は達成できた。</p>	<p>地域の二つの小学校の子どもたちが、一人でも安全に通えるようにと開室場所を二か所とした。結果、施設を軸に考えると二か月に一回の開室となり居場所と認知されるためには開催日の間隔が開いてしまった。今後は、居場所の役割りを果たせるように開室日を増やし、安心できる人間関係を築ける場を目指していく。</p>



団体名	16mm 映写機の会
事業名	16 ミリ映写機とフィルムを使って地域で子供向け映画上映会を開こう

目的・背景	事業の効果
<p>子供たちに古き良き昭和時代を知ってもらい、家族でのコミュニケーションの機会を増やし、みんなに笑顔になってもらう。</p> <p>特に本年度はコロナで外出できなくなり、家庭内に閉じこもり状態となってストレスを溜める乳幼児や学童、大人が増えたことと聞いたので、そのストレス解消に一役買えればと思い、できる範囲で最大限の活動をした。</p>	<p>7/20 平間小学校体育館で6年生対象の出前上映会を実施。 コロナ禍で八ヶ岳研修や修学旅行が中止となった生徒たちに、16mm フィルムで「夜空の星」をみせ、楽しんでもらえたようである。担任教師や校長先生にお礼を言われた。</p> <p>12/24 平間保育園にてクリスマスアニメ上映会を実施。1歳児～5歳にミッキー・マウスとドナルドダックの2作品を上映。部屋を暗くしたとき泣き出す乳児もいたが、保育士の先生方の評判は良く、再訪問依頼もアンケートに多数あった。</p> <p>2/23 中原市民館実習室で16mm操作講習会を開催。外部から10名の参加者があり好評。何名かは来年度から会のメンバーに加わってくれそうである。非常に受講者の満足度が高い講習会であった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナ禍で出前上映会に訪問できる小学校と保育園・幼稚園が限られていたため3月の出前上映会は実施できなかったが、本年度の状況を鑑みるとほぼ計画通りに実施でき、本事業の「笑顔をお届け」目的は達成できたと思われる。</p> <p>上映会後に参加者に記入してもらったアンケート結果を見たら、参加者の満足度が非常に高いことから「笑顔をお届け」目的は達成できたと考えている。</p>	<p>活動の方向性が正しい(間違っていない)ことが本年度の活動を通じて実証されたが、市民活動団体として自立・存続していくためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 収入を得られる出前上映会の実施 2) 活動できるメンバーの増員 <p>が課題と思われる。</p> <p>中原市民館、高津市民館などで障がい者支援をしている団体とは交渉済みで来年度の出前上映会依頼が有料でありそうなこと、社協や区役所の地域ケア部署から高齢者施設やこ文での上映依頼など、活動を横展開できそうな団体窓口と繋がったので、あとは会のリソース的にどれだけ活動できるかが課題である。</p>



平間小学校八ヶ岳集会



平間保育園クリスマス上映会



16mm 操作講習会

団体名	まめつつ
事業名	がん患者・がん経験者向け運動推進

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市内で暮らしの保健室をお手伝いしてきて、がんの治療後も体力低下や体の不調が続くという患者さん達を見てきた。働けない、治療を途中で断念という例もある。</p> <p>回復には、従来は安静にするとされてきたが、運動によってかなり軽減されることが最近の研究(※参考)で明らかになった。だが、あまり知られていない。また、がん治療中・後に運動をといっても、何の運動? 続かないといった悩みや、ヨガなど軽い運動が多く効果が少ない場合もある。</p> <p>これらを解決するために、がんと運動の知識を学ぶ機会を作り、中～高負荷の運動を日々続けられるようサポートする。</p>	<p>【オンラインエクササイズ後のアンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちになった。 ・どういう運動が自分に適しているかわからなかったので、メニューを教えてください助かった。 ・丁寧な解説で、オンラインでも不自由なく体を動かせた ・自宅でできる、筋トレや運動を知ることができた。 ・自分で運動をするきっかけとなり、生活の中に運動を取り入れることができた。 ・継続すると体が変わるのも体感できてよかった <p>など、運動による気持ちと体の回復や効果を感じたという意見が多く寄せられた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>【体組成計測会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談で運動指導ができたため、オンラインエクササイズへの参加につながった。 ・体力が落ちていないと思っていた参加者が、意外と体力が落ちているという結果がわかり、数値で把握できた。 ・普段から運動に触れていない方もいらっしやっただが、ループに戸惑いなく運動できた。 ・体が動かしにくい、硬い、筋力が無い、など、参加者の身体的な特徴や身体がかたい方、スムーズに動かない方、左右差がある方など改善点がわかった。 <p>【オンラインエクササイズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動前と運動後の体の左右のバランスや筋肉の付き方など記録をとることの大切さを実感した。 ・初回は体が動かない、終了時間まで体力がもたない参加者が、最終回では、一通りこなせるだけの体力がついた。 <p>〈ループエクササイズ指導員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動時間がなく、隙間時間でも参加できることがメリット。 ・初回～最終回まで指導して気付いた参加者の身体的な変化を見て、やはり体が硬い方が多い印象。 <p>運動に慣れている方もいらっしやるが、初めて参加された方は慣れるまで苦労されたかもしれない。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんへ運動の必要性が伝わりにくい ・リハビリ体操との違いが伝わりにくい ・患者さんご自身が自分の体力・筋力の低下を自覚していない。(生活に支障がないため) ・初期治療がひと段落した方へのアプローチ、運動の必要性を感じていない→効果があることをお伝えしたい。 ・チラシの配布や掲示をしたが、運動に関心がない患者さんが多いと配布先から指摘有り。 ・プログラムの充実が必要(筋トレ・ループ) <p>→初級、中級、上級とレベル分けをした動画にバリエーションを作れたら良い。</p> <p>【今後の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士のコミュニケーション、おしゃべり会の開催。 ・患者会等との横のつながりを作る。 ・プログラムの充実。 ・罹患後の運動の必要性を、他の団体と協力して広めていく。 ・運動や治療以外のことで必要なこと(お化粧、ウィッグ、下着、靴など)→みんなの意見を載せる情報や場所の提供。 ・ジャンルを超えて情報交換できる場所の提供。



チラシ表



オンラインエクササイズ



体組成計測会

団体名	防災マインド・アンド・マネジメント
事業名	防災マインドを育成する研修・訓練と防災に関する活動のマネジメント

目的・背景	事業の効果
<p>首都圏は、今後30年以内にマグニチュード7以上の地震発生率が70%以上といわれています。また、近年の台風や豪雨災害は、これまでにない規模の被害をもたらしている状況があります。川崎市でも同様に、大規模地震による大きな被害が予想されているほか、2019年の台風や豪雨では多摩川沿いの地域において多くの被害が発生しました。</p> <p>しかし、市民アンケートをみても個人や地域での備えはまだ十分でなく、家庭内備蓄の実施や避難行動についての認知も約5割となっています。</p> <p>今後発生する様々な災害のリスクに対して、個人や団体が正しい知識を身につけ、十分な備えをし、有事には減災行動を率先して行い自らの命と生活を守ることを目指します。</p>	<p>市民、団体、企業等が、過去の災害(地震、風水害等)の実態を知り、それぞれの地域に起こりうる被害を正しく評価できること。そして、災害の被害を軽減できるような知識・技術を身につけ、減災行動を率先して行うことができること。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>1 団体向け防災講座</p> <p>対象数:5団体、実施回数:計8回、受講者:延べ103人、講座理解度:90%</p> <p>2 個人向け講座</p> <p>実施回数:計2回、受講者:延べ8人、講座理解度:90%超</p> <p>3 防災に関するコンサルティング</p> <p>件数:1件</p>	<p>今年度は、団体向けは依頼団体は複数あったものの、継続開催が1団体にとどまり、個人向けではコロナ禍もあり回数の減少がありました。</p> <p>そこで、来年度は、個人向け講座は参加費を抑えて、団体や活動の認知を高める場として、定期的な開催を目指します。その後、個人講座をきっかけとして、団体向け講座の新規依頼の獲得につなげる形を目指して事業を展開していきます。</p> <p>また、団体向け講座の受講対象を増やしていくために、学校や地域で活動する団体との連携を進めて、新規依頼の獲得や継続的な依頼につなげていきます。</p>



マンション住民への AED 講座の様子



学童クラブでの防災訓練の様子



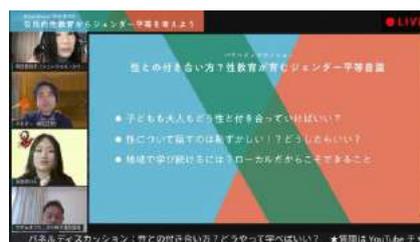
個人向けの講座開催の様子

団体名	ジェンクロス・カワサキ
事業名	世代を超えてジェンダー平等を考える地域活動

目的・背景	事業の効果
<p>日本ではジェンダー不平等が社会問題であるとやっと認知されだした段階である。川崎市はSDGsの達成に積極的ではあるが、まだまだ女性議員も少なく、「目標 5:ジェンダー平等を実現しよう」の達成は程遠い。</p> <p>そこで、ジェンクロス・カワサキでは、女性を中心に据えながら、誰も排除しない、フレンドリーな学びのコミュニティを創出することを目指す。継続的にこの問題に取り組むため、地域密着型の学びのコミュニティを構築していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な世代へ届くことを目指してイベント開催手段や申込み方法を複数用意したことで、多世代から反応があり、高校生から70代までと幅広い年代から参加を集めることができた。 ● ジェンダー不平等問題について自分ごととして考えるきっかけを、広く市民に提供できた。 ● SNS やメディア掲載を通じて、川崎市内での認知度を高めることができた。 ● マテリアルに関しては年度末ギリギリの完成となったため、十分な効果測定はできていないが来年度以降さらに発展させたい。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ● 本助成で計画していた事業(イベント3件とマテリアル制作)は、コロナ禍での対応でオンライン開催に変更もあったが、計画通り実施ができた。 ● イベントは回を重ねるごとに、関係人数(参加者・メンバー・視聴者数)を増やせた。 7月イベント(参加者数29名:うち会場4名/オンライン19名, スタッフ3名, 登壇者3名) 9月イベント(参加者数95名:うちオンライン89名, スタッフ4名, 登壇者2名) 1月イベント(参加者数60名 + 録画視聴数344・3/22時点: オンライン53名, スタッフ5名, 登壇者3名) ● 13件に渡るメディア掲載を通じて、川崎市内での活動認知度を高めることができ、多世代の地域密着型の学びのコミュニティの土台を作れた。 	<p>設立後の活動について想定以上の反響・メディア掲載(合計13件・助成金関係の事業のみでは9件)により高まった認知度を活かし、更なる発信や他団体との協業プロジェクトを増やしていき、現役世代中心ならではの団体として、ツール活用や動き方で他の市民活動と良い相乗効果が生まれる地域密着のコミュニティとして育てたい。</p> <p>来年度は、今年度末に制作したマテリアル(カード)を更に発展させ、一般参加者を募ったワークショップなどを実施していきたい。</p>



7/18 対話会 Vol.1(すくらむ 21)



1/23 対話会 Vol.3(オンライン)



2/6 マテリアル制作ワークショップ

団体名	TAMA VOICES
事業名	たまアートカフェ

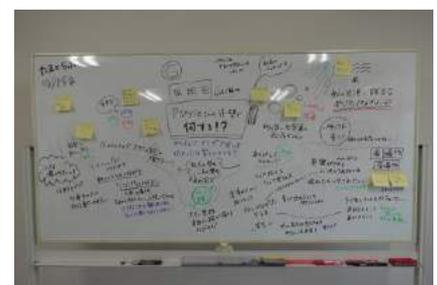
<p>目的・背景</p> <p>多摩区のアーティスト、アート関係の仕事をしているプロフェッショナルが集まり、区民だれもが楽しめる様々なアートプロジェクトを実施していきたい。企画を立案するキュレーター、作品をつくるアーティスト、それを伝えるアート・コミュニケーターが発起人となり、多摩区にクリエイティブなコミュニティを作ることを目指し、大人も子どもも誰でもアートを楽しめる、開かれた場を作る。</p> <p>特に、本企画ではアート活動に関わりたい人と対話するコミュニティカフェを不定期に継続して実施し、活動の周知や周囲の方との信頼関係構築を行う。長期的にはアートの地産地消の枠組みを提案したい。</p>	<p>事業の効果</p> <p>多くの区民のやりたいことが集まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことを持ち寄れる場所がほしい ・子供が入れて音が出せる場所をつくりたい ・思い出写真をプロジェクションしたい ・多摩区音頭を作りたい ・もっと中間層（サラリーマン世代）が参加しやすいような仕組みを考えたい <p>30-40代のクリエイティブや課題関心層と出会えた。</p>
<p>実施結果</p> <p>公開作戦会議やワークショップなどのイベント開催、オンライン配信での振り返りイベントを通じて、多くの人と出会うことができた。</p> <p>アートに関心のある人とのつながりができ、次年度事業のオファーもいただいている。</p> <p>今後は、集まった声を実現するために、持続的な運営基盤を整える必要がある。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>まだ検討中だが、多摩川河川敷の課題エリアでの展開の依頼を受けている。また向ヶ丘遊園前の仮囲いでのプロジェクトも依頼を受けている。</p> <p>コスギアートラファブリカのシンポジウムに代表熊谷が登壇、また川崎市のパラアートの報告会にも登壇するなど、活動周知と熊谷の文化芸術の事業評価、専門家としての活動を地域活動につなげることができた。今後、さらに川崎市での活動を広げたい。</p> <p>拠点については、向ヶ丘遊園前の再開発予定のビルからオファーがあり、ディスカッションをしている。</p>



公開作戦会議



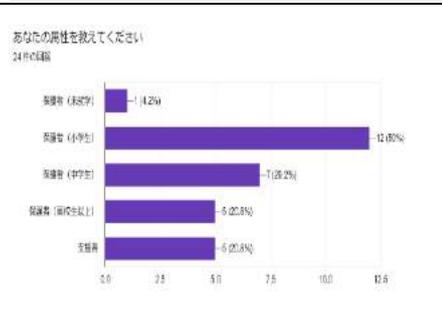
森展 YARN WEBBING 編み編み



たまくらぶ ホワイトボードアイデアスケッチ

団体名	ひつじの会
事業名	発達に凹凸のある子を育てる保護者のためのコミュニティ

<p>目的・背景</p> <p>発達に凹凸がある子どもの保護者同士が気軽に話をしたり、情報を交換したり、専門家や先輩の保護者に相談できるコミュニティを運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・支援センター・保育園・学校・福祉事業所・児童家庭支援センター・放課後デイサービスなどと連携し、インフォーマルサービスとしての保護者支援事業として機能させる。 ・保護者がリフレッシュできてポジティブになれる場として機能させる ・保護者が地域で孤独感や疎外感を感じることなく安心できる居場所を作る。 	<p>事業の効果</p> <p>学び・・・発達に凹凸のある子の支援方法が学べる。 情報を平等に共有できる。 凹凸があっても自立した生活を送れる社会を目指す。</p> <p>共感・・・悩みや不安を吐き出せる安心した場がある安心感が生まれる。 育児に悩む保護者を社会から孤立させない。</p> <p>貢献・・・いろいろな支援のネットワークがつながる。 この会でつながりあえて、子育てを終えた保護者が、今困っている保護者に手を差し伸べられる。</p>
<p>実施結果</p> <p>① 毎月の語り場や居場所としての会・・・参加人数 5 名 毎月第3土曜日開催：ひつじ月イチ会 毎回テーマを決めて、保護者の困りごとや不安を語り合うことができた(共感)。また、必要な支援を紹介したり(貢献)、ほかの保護者さんからの情報提供(貢献)があったり、会としては、かなり有意義な時間を持つことができた。</p> <p>② 講演会・勉強会の実施 2 回の公開講座で保護者はもちろん、支援者や学校関係者にも参加してもらうことができた(貢献・学び)。また、アンケートなどから、今の発達障がい保護者が何に悩んでいるのかという傾向をうかがい知ることができた(貢献)。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>事業の課題・・・第3土曜日のひつじの会については、土曜日は学校行事も多く、参加したくても参加できないという声が多く上がっている。またコロナ禍だったので、ほぼ毎回 zoom 開催だったが、参加者の中には顔を合わせて、お話をしたいという声も多く寄せられた。 公開講座も有料にすると、参加人数が減る傾向であるので、魅力的なコンテンツを考える必要がある。</p> <p>今後の展望・・・「桂～新生児肌着づくり～」とのコラボから、新しい出会いがあり、大きな進展があった。また三重県の日本福祉大学の先生に講座をしていただくことで、新しいつながりもできた。挑戦することで新しいつながりが増えていくので、このつながりは大切につつ、来年度は自立の年として会を継続していきたい。</p>



8月1日 YouTube 公開講座
事後アンケート



8月1日 YouTube 公開講座
「県立高校のインクルーシブ教育って？」



3月13日オンライン zoom 公開講座
「思春期の性 どうする？」講師伊藤先生

団体名	かわさき民話を愛する会
事業名	川崎の民話のルーツを探る——講演記録とフィールドワーク

<p>目的・背景</p> <p>民話の世界の奥深さを知ることにより、自分や周りの人間の人生、地域社会や世の中の在り方について考えるようになる。ということは、豊かな生き方とはどういうものなのかを、必然的に思考するにちがいない。</p> <p>まさに「心のごちそう」をたっぷり味わいながら、この川崎の地で生活していくことの意味を感じる取ることになるだろう。</p> <p>特に今回は、講演記録の冊子化による「読み物」としての普及、そしてフィールドワークという体験学習、この二つの取り組みで、より一層、郷土愛の深まりを期待している。</p>	<p>事業の効果</p> <p>「山本講演」の記録冊子の趣旨を、「川崎の民話のガイドブック」的な要素に変更しつつも、「地域社会や世の中の在り方について考える」とことと密接につながった内容となった。</p> <p>多くの人たちから「川崎にこんな歴史があったのか」と驚きの声が多く寄せられ、郷土を見直す貴重な機会となった。</p> <p>多摩区内の中学校の演劇部は、川崎の民話作品を上演、中原区内の小学校の読み聞かせでは、萩坂昇作品を紙芝居で10年以上も上演している。この二校には訪問し、意見を交換しつつ、今後の連携を模索していく。</p>
<p>実施結果</p> <p>当初、「山本講演」二回分の冊子を考えていたが、分量が多すぎて、かえて読みにくいと判断し、「川崎の民話のガイドブック」的な要素を軸に、コンパクトにまとめた。</p> <p>その分単価が安くなったので、1000冊に増やし、市内の図書館、公立中学校、講演の題材となった宮前区の全小学校に配布。配布冊数は各所に2～3冊、100か所前後に配布し、あとは関係者・個人に配布、希望者には、5冊ほど配布した。現在、約900冊を配布している。</p> <p>フィールドワークも好評で、次年度以降も実施するが、コロナの不安があるので、参加定数は必要だろう。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>学校や図書館に冊子を送った際、アンケートも添えて、具体的な取り組みを働きかけたが、反応は不十分で、今後の課題となった。</p> <p>フィールドワークは大変好評だったので、今後も取り組む。</p> <p>川崎区の医王寺や中原区の中丸子近辺を中心に実施する予定である。</p> <p>おと絵がたりさん、日舞扇乃会さん、川崎セブンスターさん、著名人の講演会など、大々的にコラボ企画を実施したい。</p> <p>この企画はコロナが終息して、多くの人を呼べる状況になることが大前提だろう。</p>

		
<p>山本講演記録冊子の表紙</p>	<p>11/3 フィールドワーク・権六谷戸</p>	<p>11/21 フィールドワーク・お化け灯籠</p>

団体名	かわさきミュージックチャレンジ
事業名	第2回 誰でもチャレンジコンサート
目的・背景	事業の効果
<p>かわさきミュージックチャレンジの事業の目的は、すべての方がノーマライゼーションのマインドを持ち、障がいがあるなしに関わらず、音楽や芸術を楽しみ、自由な自己表現ができ、共に理解し共に生きる社会を目指すところにある。その目的の手段として「誰でもチャレンジコンサート」・「みんなでチャレンジコンサート」を開催している。多くの方が自己表現を自由に気持ちよく出来ること、また、障がいのある方の演奏を聴くという温かい時間の共有と一体感により、理解者が増加していることは大変喜ばしく、我々の考える方向性はこれからの社会のニーズに合致しているという確信を得ている。現在は年に数回程度のコンサートの開催であるが、出場を希望する方が増えており、将来的には安定開催を目指したい。</p>	<p>【アンケートより事業目的が達成された考察できるコメントの抜粋】</p> <p>「緊張して演奏しましたが、一生懸命に頑張りました。皆に褒められて嬉しかったです。これからも練習を頑張ろうと思います。」・「このコンサートは我が家の生きがいです。」・「このコンサートに参加することで、日々の生活に刺激と活気があり、頑張ることが出来た」・「とても一生懸命に、しかも楽しく演奏していらっしゃる姿を見て、感動して励まされました。明日からも頑張ろうと思えました。」・「会場がきれいでアットホーム、いろいろな形態があり、いろいろな方が参加しているところがとてもいいと思いました。」失敗してもチャレンジして演奏している姿が良かった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 演奏者アンケートコメント、「緊張して演奏しましたが、一生懸命に頑張りました。皆に褒められて嬉しかったです。これからも練習を頑張ろうと思います。」・「このコンサートは我が家の生きがいです。」など、多くの充実した感想が寄せられた。今後の生き方に資するイベントになり得た。</p> <p>② 来場者はコロナ感染症対策により、家族のみに限定とした結果 38 名であった。</p> <p>③ 趣旨理解の測定 観客アンケートより(回答数25)下記の数値結果を得られた。理解されていると判断する。</p> <p>■趣旨を理解したか 強く理解した 15 理解した 9 少し理解した 1</p>	<p>かわさきミュージックチャレンジの事業の最終目的は、左記にあるようにノーマライゼーションのマインドを持って音楽や芸術を楽しむ、そこからお互いを理解し合うところにある。</p> <p>当団体も3年目を迎え、のコンサートの開催への準備や手立てが確立してきた。出場を希望する方、賛同いただける方が増えており、将来的には安定開催を目指したい。そのためにはスタッフの数を増やすこと、ステージマネージャーなど専門的な役務の安定的な確保、会員制度の検討(出演者及びボランティア)を進める。また、団体としてのスキルアップの必要性があるので、積極的に講座などへ参加していきたい。</p>



障がいのある方のダンス披露。
コロナ禍オンラインで練習を重ねた。



川崎市在住の作詞作曲活動をされている。
自作の弾き語り曲を演奏。



毎回依頼しているステージマネージャ。
丁寧な配慮で助けられている。

団体名	かわさきハワイアンフェスティバル実行委員会
事業名	かわさきハワイアンフェスティバル2021

目的・背景	事業の効果
<p>① ・・川崎市民の24.6%が コミュニティ不足と感じている。 市民のコミュニティの輪を 広げる。</p> <p>② 地域企業・商店街と協力したまちづくり活動</p> <p>③ 川崎市内の施設・学校と協力した活動</p> <p>④ イベント参加によりコロナ禍中のストレス軽減</p>	<p>コロナ禍中 非営利・ボランティア団体が コロナ対策にこだわり イベントを開催することに注目され</p> <p>テレビ神奈川 TBS Nスタ イッツコム番組制作 ハワイ州観光局 ホームページ掲載 タウンニュース掲載 雑誌 素敵なフラススタイル掲載 雑誌 ハワイアン ファン掲載</p> <p>により 多くの方に周知された。</p> <p>川崎市内での認知度も上がり イベント企画・川崎市内のハワイアン以外の団体との出演交渉も スムーズになった。</p> <p>次回イベントへの市民の期待度も上がり お問い合わせも増えている。(電話・ホームページお問い合わせ欄)</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 2021年度は 3回 イベントを開催した。</p> <p>② 地域企業・商店街から21 社協賛頂き 当日も 15社観覧にお越しいただいた。</p> <p>③ 折り紙レイ制作活動に 市内2学校・4子供文化センター 参加</p> <p>④ 雰囲気の良いハワイアンイベントに参加することにより コロナ禍中でも市民の気分転換を図ることが出来た。</p>	<p>*コミュニティの輪を 広げる事を 常に注視し 多くの方々・川崎市内のハワイアン以外の団体にも 『ハワイアンから始めよう』 『ハワイアンをきっかけに繋がろう』 の 声かけをする。</p> <p>*2022年度は 5回 イベントを開催する。</p> <p>*年間を通して活動している 折り紙レイ活動をもっと 多くの団体に広める活動をする。</p>



2021. 4イベント

オープンマイク&カニカピラ



2021. 5イベント

ダンス&ワークショップ



2021・10イベント

かわさきハワイアンフェスティバル2021

団体名	戸張一座
事業名	戸張一座

<p>目的・背景</p> <p>ただ長生きしたいではない・・・ただ長生きしても楽しくない。楽しくないと人は悲しくなってしまう。私達はあらゆるパフォーマンスで心を元気にしてあげるのが目的なんだと変化してきました。</p> <p>詩吟は独特な呼吸法で内臓を強化できます。</p> <p>普段使わない筋肉を楽しく無理なく使ってもらうことで、自律神経も整います。痰がはけない、風邪から肺炎になってしまう。そして肺炎で死亡する人は 97.8%を占めています。楽しく無理なく身体を鍛えて元気に長生きができるお手伝いをするのが私達の活動です。音楽や腹話術、歌、てあそび、コントなどで皆様心を支えます。それを、伝えて歩くのが戸張一座の目的です。</p>	<p>事業の効果</p> <p>毎回やるたびに変化や気づきがあります。</p> <p>私たちは芸を通して生きてるって素晴らしい！誰もがもらえる幸せな気持ち！を一人一人の方に伝えたいと思っています。</p> <p>コロナで人数制限はありますが、逆にゆっくり一人一人を見れることに気づきました。今までたくさんの人の中では、一人一人の顔をなかなか見ることができませんでした。</p> <p>少人数だからできることたくさんあります。</p> <p>一人一人の目を見てコミュニケーションが取れる笑顔になってくれる人が増えた。</p> <p>家族からのお礼の問い合わせが増えた。</p>
<p>実施結果</p> <p>コロナ渦はまだまだ続いていて、なかなか公演ができない中、オンライン公演がやっと形になってきました。私たちの若さと頭脳、行動力を使っていろんなことにチャレンジした1年でした。最初の4、5月は開催する名が大変でしたが、後半はオンラインを取り入れて13回開催することができました。</p> <p>(4/21.6/15.25.7/22.8/14.15.10/22.25.12/16.24.1/13.3/9.26)</p> <p>終了後は、オンラインお茶会、リアルではアンケートを書いてもらって、今後の参考にしています。『故郷の語りで涙が止まらなかった』『腹話術が孫と重なった』などたくさんの声を頂きました。</p> <p>コロナ渦の中、タッチはお人形で、舞台の前には大きなビニールシートが張られてる中で行いました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>一人一人に元気を届けられる、皆さんの顔を見て感じました。誰でも優しさはもっています。でもそれを、閉ざしてしまった方もいます。そんな方にも、なんかもっとできないか考えていきたいと思います。昔は持っていたうれしい気持ちや楽しい気持ちを思い出してもらうきっかけになればと思います。</p> <p>人間にとってなくてはならないエンターテインメント</p> <p>人の心を動かせる！そんな素晴らしいことを引き続き無償で活動していきたいと思っています。そのためには、有料公演『希望に向かって』Ⅲを開催していきます。</p>

会場の皆さんとリズム体操



慰問コンサート

『夢と希望にむかって！』コラボ公演



団体名	桂～新生児の肌着をつくる会～
事業名	妊婦さんのための肌着作り講座

目的・背景	事業の効果
<p>○本来であれば希望に満ちて赤ちゃんを心待ちにしていた妊婦さんたち。でも実際には家の中でひとりで不安と戦っている方も多い。だれかとつながっていることはとても大事であり、先輩ママや妊婦さん同士だと心の内を話すことの壁は低くなる。地域にそれができる場があることを知っていただistrictを目的としている。○この事業の中心には「赤ちゃんのための肌着を縫う」ということがあるので、無理に話さなくても、充実した時間を作ることができる。「手仕事をする」ということは、心が無になっていく状態にもなり、心の安定の素にもなる。地域の中に赤ちゃんと溶け込んでいける足がかりの一つとしての場になっていくことを目的としている。</p>	<p>①妊婦さんが自分の体調や気持ちと相談しながら、参加することができ、新生児の肌着を縫うことができる。また縫うコツを教わることができる。</p> <p>②肌着作りをしながら、先輩母達の話の聞いたり、相談したりすることができる。</p> <p>③「縫うこと」をテーマにした地域の居場所を知ることにより、赤ちゃんが生まれた後も、自然と地域に入ることができるようになる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>17名の方に参加していただいた。(アンケート10名)</p> <p>●「縫う時間はどうだったか」→「楽しかった」という回答を全員が記載。集中した、いろいろな話ができたりして、とても充実した。などの回答が得られた。●この後も縫物の会に参加したいか→「参加したい」3名、「縫い方がわからないときに参加したい」7名●オンラインでの縫物について→テキストと配信の両方を見ながらやったので、大丈夫だった。(2名)・本当は対面が良かったがコロナなのでこれもありだと思う(1名)●何名か生まれた赤ちゃんに肌着を着せて、写真を送ってくださった。メンバーで大変喜んだ。●オンラインと対面参加者との関係を繋ぐのはできなかった。●主催者側も、オンラインでの縫物は初めてだったのでリハーサルを何回か繰り返した。サンプルやテキストの改善なども実施中ずっと行った。</p>	<p>①縫物をする場が増えたため、そちらのほうで肌着作りを継続する。②いろいろな年齢層が集まりつつある。肌着作りは孫や友達、そして子育てを終えた方々に注目されることが多い。団体としては高齢で目が追いつかないなどの理由で辞める方もいたが、新しい方が入ってくださり、輪が広がっている。(現在6名)③NICUの看護師と「お母さん達といっしょに肌着を縫う会」を作ることとなった。コロナで赤ちゃんとお会いできない母親たちとオンラインで縫物をする会となる。未熟児でも着られるサイズ10～70までのサイズ展開した肌着を実際に赤ちゃんに着せてのサイズ確認や、より快適に、着せるときもストレスがかからないような構造にするための調査研究などを進めている。NICUや看護師と連携し、会費やクラウドファンディングなどで展開していこうと考えている。</p>



団体名	なかはらミュージカル実行委員会
事業名	ミュージカル体験ワークショップ

<p>目的・背景</p> <p>市民参加型のミュージカルとして、世代を超えた豊かな「交流の場」を作り、人や町への理解を深めることにつなげていく、「なかはらミュージカル」。ミュージカルの本公演は観客動員数約 1,200 名となり、毎回多くの観客の方から、その質の高さに高い評価をいただいている。参加する方にとっては、深い充実感、達成感が得られる一方、そのための稽古期間が約 7 か月、練習回数は 50 回を超えるため、参加には相応の高いハードルとなっている。そこで、以下の 6 項目を目標とする。</p> <p>①比較的参加しやすい回数に抑えて、ミュージカルの経験をする場を設ける</p> <p>②演じることを経験することによって、「自己肯定感」を高め積極的に社会とかわかることのできる人材育成</p> <p>③世代を超えた交流の場の創出。異なる世代の中で、表現をする場を設ける。</p> <p>④次代を担う子どもたちに対して、地域に対する信頼と安心の醸成</p> <p>⑤地域の歴史や成り立ちを知る機会の創出</p> <p>⑥ミュージカルの魅力に気づき、次代のミュージカルメンバーを発掘する</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 42 人のうち、25 人が初参加。 参加者アンケートの結果では、「自己肯定感の向上」「表現力の向上」ともに、高評価を得ている。 ワークショップ初日は恥ずかしがって泣き出してしまった児童も徐々に慣れて、皆の中で堂々と発表できた。 ・参加者以外にボランティアスタッフとして参加した中学生も、初参加で戸惑う小学校低学年の面倒をみたり、ダンスの振付の個別練習に付き合うなどしていた。 ・次年度の情報広報仮チラシを高校生ボランティアスタッフに作成してもらい、実践的経験をしてもらえた。 ・最終日の発表会では、仲間意識を持つことができた。 ・今回は時代背景を太平洋戦争中とし、着物やモンペ、名札を縫い付けた衣服など当時に近い衣装を使って発表会を行った。脚本は戦時中であっても工夫して日常を送る人々の生活の一場面を切り取ったもので、現在のコロナ禍で制約のある生活とリンクしたものを書き下ろしてもらった。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 42 人＋ ボランティアスタッフ 10 人（うち初参加 25 人） ・参加者の年代 小学生 29 人 中学生： 0 人（ボランティアスタッフ 4 人） 高校生： 2 人（ボランティアスタッフ 4 人） 大人： 11 人（ボランティアスタッフ 2 人） ・次回なかはらミュージカルへの参加希望（検討中も含む）26 人／35 人（74.3%） ・アンケートによる測定 低いを1、高いを5として5段階で評価。4 以上の割合。 自己肯定感の向上 86.8% 表現力の向上 78.9% 漠然とした恥ずかしさの克服 76.3% 地域の歴史・文化への興味への向上 60.5% 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>事業名に「体験」と強調することによって、初参加者が 25 名となり、特に小学校低学年の参加ハードルを下げることに成功した。低学年の参加は場を明るくし、大人のやる気 UP にもつながっているようだった。</p> <p>ミュージカル出演に関しては稽古時間が長くなってしまいうこともあり、部活動をやっている中学生にはハードルが高いが、裏方などのスタッフとしての活動は時間拘束が短く、参加しやすいことがわかった。チラシ作成や情報伝達などは国語表現の実践の機会となるので、中高生の育成の場としても価値ある活動となる。</p> <p>脚本・音楽はオリジナルのものなので、地域に広めていきたい。</p>



芝居ワークショップ



歌唱ワークショップ



発表会

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会
事業名	こどものまちミニカワサキ 運営会議、こども会議

目的・背景	事業の効果
<p>「こどものまちミニカワサキ」は、川崎市が「子どもの権利に関する条例」に掲げているように、自分を表現したり、自分の意見や考えを表しながら、「まちづくり」という社会活動に参加する力を育み、その機会を提供する。また、その活動を通して、運営会議に参加する大人メンバー、こどもメンバーの保護者に対して理念や問題意識を伝え、共感する仲間を増やしていくほか、当日の「こどものまちミニカワサキ」に参加してくれる子ども達やその保護者に理念を伝えることによって、「子どもに優しい」川崎市の実現に貢献していく。</p>	<p>「こどものまちのまちづくりについてメディアに取材してもらうことで、自分のまちや、こどものまちの活動をより知ることができた」（シビックプライドの醸成/参加した子どもからの意見より）</p> <p>「ミニカワサキでは様々な学校の様々な学年の様々な子どもたちと触れ合えるので、とても貴重な機会をいただけて大変嬉しく思っております。日々の中ではなかなかさせてあげられない子供中心の時間の流れはとても面白く魅力的で、大人の私ほどこまで手を差し伸べていいのかよっぽど考えさせられます。」（多世代交流、共育/保護者アンケートより）</p> <p>「子どもの権利条約フォーラム 2021in かわさき」に参加し、川崎市内のこども子育てに関係する団体とのネットワークを構築することができた（ソーシャルキャピタルの醸成）</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>メインイベントは実施できなかったが、ミニカワサキの取り組みへ関心を寄せてくださる方のつながりで、タウンニュースや、かわさき FM などで紹介していただいた。</p> <p>運営を担う運営メンバー増は難しい状況だったが、新たにこども会議メンバーとして 14 名が加わり、その保護者へも趣旨を伝えることができた。</p> <p>メインイベントは実施できなかったかわりに、「たちばなフェス」への出店や、「ミニミニカワ」の実施など、コロナ禍の制限がある中でできる限り子ども達のモチベーションを保ち、満足感と達成感を感じる企画を実施することができた。</p>	<p>コロナ禍が続く、メインイベントは実施ができなかった。そのため、団体としての大きな事業収入（参加費収入）を得ることができず、助成金収入に頼る形での活動となった。そんな中でも、小さい規模での企画にチャレンジし、ワークショップのニーズなどを知ることができた。このままコロナ禍が続いていくことも想定し、メインイベントだけに収入源を頼らない形で、活動を継続維持していくために、助成金だけでなく、協賛金や、ワークショップ収入などを得ていくチャレンジをしていきたい。</p> <p>また、子ども達がまちづくりの楽しさに触れたり、子どもの権利のひとつとして、「社会参画」を促すモデルプログラムとして認知されるプロジェクトに成長させていきたい。</p>



大人子ども合同で運営会議を実施



こども会議ではこどもが司会進行を担当



メディアの取材や視察対応も、子ども自身が受け、自分の言葉で語った。

団体名	一般社団法人カノンパートナーズ
事業名	アクティブシニア向け「健幸アップ体操」(トレーニング・リハビリを中心に)

目的・背景	事業の効果
<p>超高齢化社会で、終末期のあり方として高齢者は安心して、住み慣れた地域でいつまでも過ごしたいという希望があります。一方、高齢化に伴い医療や介護などに係る社会保障費の抑制という経済的課題もあります。</p> <p>本事業は、中高年齢者に対し日常生活で必要となる体力・筋力・関節可動域などのトレーニングを通して、生活機能を高め、QOL(生活の質)を向上させ、要介護状態に陥ることなく、イキイキとした生活を目指す方々を支援する介護予防事業です。</p> <p>また、老年症候群等の不安を抱える高齢者を介護予防イベントなどで発見し、早期に介護予防につなげるなど、地域に介護予防活動を広げることも目的にしています。</p>	<p>① 健康寿命を延ばすために、定期的に運動する機会＝居場所づくりの場を5ヶ所から7ヶ所に拡大し、参加者を増やし、より多くの市民の体力、筋力、生活機能をアップさせ高齢者のQOL(生活の質)の向上が期待できます。</p> <p>② 「健幸アップ体操」のコミュニティ・ネットワークから、現参加者40名から70～80名を目指し、達成することにより見守りネットワークや様々なイベントへの参加を紹介でき、社会参加を促すことが出来ます。</p> <p>③ 地域で活動する担い手の育成を目指し、地域活性化につながられます。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 健康を維持し健康寿命を延ばすために、定期的に運動する機会を5ヶ所から7ヶ所拡大できました。また、AI 歩行分析などから転倒予防、筋力、生活機能アップなど高齢者のQOL(生活の質)の向上ができました。</p> <p>② 本事業の「健幸アップ体操(小杉・中原・新城・麻生)」の現参加者40名から74名を達成できました。(全教室では110名)また、参加者へ市のイベントやかわさき市民活動センターの紹介などを行えました。</p> <p>③ 地域で活動する介護予防の担い手へ体操指導や、地域包括支援センター職員、社会福祉士実習生(研修の場10名)、介護予防活動の相談など(5件)に対応しました。</p>	<p>課題:開催告知が不十分であり集客が大きな課題です。</p> <p>今後の展望:</p> <p>① 2022年度より本格的に LINE 配信を行い、更なる効果につなげ顧客満足度向上を図ります。</p> <p>② 2022年度より地域の理学療法士と連携し、定期的に体力データを集積。更なる専門性を追求した訓練を行い新規顧客の獲得につながる活動を実施します。</p> <p>③ 2023年度までに定期体操教室を7ヶ所から10ヶ所へ拡大し、登録者数200名を目指します。</p> <p>④ 教室拡大に伴うインストラクターの育成を行います。尚、地域で活動するリーダーへの支援も引き続き行い、地域貢献も含めた活動を広げます。</p>



新城教室 バランス感覚を高める運動



新規:麻生教室 股関節可動域運動



イベント:肩甲骨の可動域運動

団体名	ダンサンプル Dancensemble
事業名	ダンスを通しての、世代間を超えたコミュニティ形成へのきっかけ創り

目的・背景	事業の効果
<p>この事業ではダンス活動によって、参加者や観客の方々が自分の表現を自由に楽しみ、心身共に健康になることを目指します。</p> <p>国籍、所得、居住歴、年齢など異なるバックグラウンドを持つ人々が暮らす川崎市。ダンスは異なるバックグラウンドを持つ人々であってもお互いに楽しみ、エネルギーをわかちあえるような非言語コミュニケーションです。</p> <p>新型コロナウイルスの流行によって人々の交流が減り不安も大きい今、「ダンスならではのエネルギーが人をエンパワメントする」機会をつくり、多様な人が交流するきっかけにつなげます。</p>	<p>活動に参加する前より、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体や精神面の調子がよくなる ・身体で表現することの抵抗感が減少し、楽しむことができる ・他の人の表現を認め、一緒に楽しむことができる ・普段の生活では関わりのない人とも交流が生まれる ・芸術・文化への興味が生まれ、参加や鑑賞により積極的になる
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>参加者アンケートで「事業の成果」にあげた各項目を5段階で評価していただきました。</p> <p>その結果、全項目で【平均値 4.5 以上】の高評価をいただきました。</p> <p>またアンケートで下記のようなコメントをいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格や体型をキャラクターとして表現でき、自己肯定感があがり、より自分を知る機会となっている。 ・ダンサンプルでは主に二つの良い影響があったと考えています。一つは楽しみながら身体を動かすことができたこと、もう一つは幅広い世代・職種の方と楽しみながら交流ができたことです。仕事内容やプライベートを細かく共有しているわけではないけれど、だからこそ普段とは異なった交流ができました。ストレス解消・体力づくりにも効果ありです！ ・生きている！！って思わせてくれました！そして人は攻撃や恐怖を植え付ける存在では無いことを今このとき目の前の自分と向き合ってくれる人間の温かさと笑顔を教えてくれる素敵な空間を頂きました！身体をうごかすことの楽しさや表現への恥じらいを捨てる勇気も！ 	<p>子どもや高齢者の参加率アップなど、より多様な人が参加し、普段関わりのないような人ともコミュニケーションを取れる場を作っていきたいと考えています。</p> <p>その為にはますます川崎市の他団体や企業とも連携をとっていきたいです。</p> <p>またこの活動によりライトな形で参加をしてもらえよう舞台以外でもイベントを企画していきたいと考えています。</p> <p>次年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続きそうなので、現地に来れない人ともしっかりとコミュニケーションが取れたり、この活動を楽しんでもらえるよう充実したオンライン配信の設備や機会を整えます。</p> <p>そして団体の自立と継続に向けて収入面のアップ、チームの細かい役割分担を行い、より広がりのある活動ができるよう計画をしていきます。</p>



屋外で踊る「青空ダンス広場」
季節を感じながらのびのびと表現していきます



9月に中原平和記念公園にて、自主公演を開催。30人弱が出演し、127人の観客が集まりました(オンライン含む)



身体、思考、経験、スキル、感覚、価値観……様々なちがいのある人々が、一緒になって公演を創り上げました

団体名	みやまえエコー
事業名	音訳ボランティア

<p>目的・背景</p> <p>川崎市の社会福祉統計(平成 29 年度)によると、平成 30 年度 3 月時点で視覚障害者は 2205 人もいる。視覚障害者の方は、移動と情報のバリアが課題だという。情報のバリアでは、糖尿病などによる中途失明者が増えてきているため、点字よりも音訳が必要であるという。また、視覚障害者だけでなく、高齢や病気の方からも「文字が読み辛くて読書の楽しみがなくなった」とか、「説明書を読まずに使って壊してしまった」といった声も聞かれる。</p> <p>そこで、音訳により日常生活に必要な情報を得られる。また、誰もが読書の楽しみを享受する。本を読む楽しみを少しでも回復することを目的とし、視覚弱者の現状と社会的対応の必要性を、活動を通じてアピールすることにより、置き去りにされることなく、読むことが困難になっても、音訳を身近なものとして利用できる川崎にしたい。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな事情で目からの情報収集の困難な方々が、声によって情報が得られるようになり、その情報をもとに、出かけたり楽しんだりできる。 ・講習会や会のパンフレット、ホームページにより、視覚弱者にとって情報収集が困難な社会であることを一般の方々も知ることができ、自分の声が役立つならと、音訳ボランティアに興味を持ったり、講習会に参加したり、実際にやってみたくなる。実際にボランティアはできなくても、見守りと声掛けはできそうだと気持ちの変化がある。 ・音訳が世間に認知されることにより、家族が依頼し、視覚弱者の文字情報が増える。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画情報を新たに入れることができ、実際に映画館へでかけることがなくても楽しい気分になったという声がかかれた。次年度には、歴史や料理などの情報も増やしていく予定である。 ・高齢者施設へは家族でも入室できない、またオンライン対応も施設ではできない状況であった。高齢者施設への出入りができるようになった時のために準備をすすめたい。 ・音訳レベルがアップし、会員から川崎市視覚障害者情報文化センターの認定音訳者が誕生し、講習会や勉強会が自前の講師で開催できた。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は助成金なしで活動し、いずれ委託事業を請けられるように、より会員のレベルアップを図り、活動を広げたい。 今年度まで助成金をいただいたおかげで、充実した講習会が開催できるようになったため、次年度から参加費を値上げし、自己資金の確保に努めたい。 ・ファイルポストを活用できるリスナーは、オンラインでの情報提供をすすめ、ほかにユーチューブなども取り入れ、経費節減とともにネット社会に即した活動もしていきたい。 ・図書館に関係するボランティアグループと連携して活動をひろげたい。



講習会(会場)



講習会(zoom)



勉強会

団体名	特定非営利活動法人なかよしの花
事業名	地域とともに歩む交流イベント&地域貢献活動

目的・背景	事業の効果
<p>①地域交流イベントでは重度障害者の生活への理解を広げることを目標にすめる。3周年イベントでは SNS 等のアクセス数300人目標に成果を確認する。</p> <p>②また素顔あそび塾は、面白教材作成4回、作成希望者を募り、各回 5 人以上の利用者の参加を達成する。また遊びの紹介動画・おもちゃ(本)の貸出を行う。貸出数5人を目標とする。遊びのプロを目指し、おもちゃ作り体験をすることで一人遊びの楽しさ、共有する楽しさを学び、また子どもたちがなかよしの家を知ること、障害者と普通に交流することができる。</p> <p>③子どもたちの製作物写真やアンケートなどで楽しんでいる様子をもって評価の確認とする。</p>	<p>①SNS で発信することでアクセス数が増えることで、関心を持つ人が増えている。見学したい等の声があった。</p> <p>・各イベントでなかよしの家に訪問し、障害者と交流し、関心を持ってくれ、挨拶してくれるようになった。なかよし縁日では近所の人が訪ねてくれて見学してくれた。</p> <p>・地域の町会、学校、こ文の協力がえられた。福祉施設、団体と共同で事業が出来た。</p> <p>②おもしろ教材づくりに参加することでなかよしの家に関心を持ってくれた。</p> <p>③制作物の写真やアンケートなどで、楽しんでいる様子がかがえた。なかよしの家の会報を発行し、地域に配布、動画を配信し、SNS にアップし、広く障害者の生活をアピールした。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>①地域交流3周年イベントは動画とSNSで配信、なかよしの会報の発行が出来た。他のイベントなどでSNSの発信が出来た。おいしそう私も食べてみたい、ヘアースタイルやってほしい、などの反応があった。</p> <p>②すがお塾はおもしろ教材作成は3回、各回の参加者が増え、5件～38件、延べ77件参加。知り合った子どもが近所であった出来事を報告に、立ち寄ってくれた。</p> <p>・玩具の貸し出しは出来なかったが、遊び方の動画を製作中である。</p> <p>③アンケートはすがお塾で一回行った。28人に配布11人の回答を得た。楽しめた様子がかがえた。</p>	<p>①地域の団体、施設、学校と連携したイベント事業を発展させたい。市民活動センターのともにカフェで子ども食堂やドックセラピーなどの地域の団体とも知り合うことが出来たので新たに共同で行う事業を探る。</p> <p>②障害を持っている人たちなどの居場所づくり、コミュニティカフェは長期的な見通しで、条件づくりに取り組んでいきたい。次年度は相談の場を計画したい。</p> <p>③すがお塾のアンケート結果でも多くがなかよしの家に重度の障害者が生活していることを知らないと答えている。学校や地域と連携してどのように理解を広めていか工夫したい。</p>



ハロウインの音楽会に参加写真



宝石石鹸のグラデーション



ハロウインに訪ねてきた子どもと

団体名	おと絵がたり
事業名	地域や日本の昔話を おと絵がたりの動画で 川崎から世界に発信する事業

目的・背景	事業の効果(アンケート等からのご意見より抜粋)
<p>①近くでも出かけられない、こんな時期だからこそ、ご家庭で「おとえがたり net 劇場」の作品で、 日本や地元(神奈川や川崎)の昔話の物語を動画で楽しんでいただきたいと思います。</p> <p>②言葉の壁や距離を越えて、日本の神話や地域の昔話の「心のごちそう」を世界の子も達に届けます。</p> <p>③この活動の翻訳、編集、制作他の作業にかかわる人が協力し、新しいネットワークができ、つながり、より良い社会に貢献することができると思います。</p>	<p>●おと絵がたりの公演の作品を、いつでも見られて嬉しい。</p> <p>●コロナ禍でお出かけできない時に、スマホでもお話を楽しむことができました。</p> <p>●ロンドンのお子さんから踊る「しぼり松」のお話が楽しいと言っていました。</p> <p>●日本のお話を翻訳するにあたり、言葉や風習の違いなどを(英国の地元の方)と一緒に考えて、協力する機会を持つことができました。</p> <p>●市民館主催の家庭教育学級で講演とトークショーを行った。 (2月17日)参加者の方から、改めて昔話に親子一緒に味わって、心を通わせる、きっかけにしますというご意見をいただき、「子どもとの関りのヒントをさがす」という学級のテーマに貢献できたと思いました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>●配信後のネットでの再生回数 【2021年、1月 9468回 →2022年、3月 1,1900回】 チャンネル登録者数【2021年1月 34人 →2022年2月 63人】 主要5作品以外にも、地域のお話など、予定より、多数の作品が、英語、ポルトガル語に翻訳され、英語ナレーション作品もできました。</p> <p>●SNSでも多くのリアクションをいただきました。</p>	<p>引き続き、作品の制作、翻訳、と共に、発信を続けます。 川崎の「たぬきの火の用心」「しぼり松」といった、心温まる昔話のすばらしさが、このプロジェクトにより、世界にも発信できたと思います。いつかは、このような作品の上演を英国でも行えるように、場所や機会を創出したいと思いますが、時期をゆっくりと、末永く計画し、行っていきたいと考えます。</p> <p>このプロジェクトにかかわった方々との関係を、これからも生かして、さらに動画という発信力のある方法の可能性を使って、今後も活動を行っていききたいと思います。</p>



●今までの作品の画像や音を使って制作中



●声の収録、マスク付けてがんばります～



●賛助会員や、皆さんへ、動画リストを送付

団体名	NPO 法人はたらくらす
事業名	「やってみたい！」が「できた！」「わかった！」になる探求学習プロジェクト

目的・背景	事業の効果
<p>子どもたちは、学校や習い事、家庭での役割などを通して学力や人間力を学んでいるが、その学びを受動的な学びと能動的な学びに分けた時、バランスが取れていないことに気づく。能動的な学びが不足しているという声をきく。</p> <p>今こそ、地域の力も合わせ、子どもたちが能動的に学ぶ環境を整えるとき！子どもたちの「やってみたい！」という好奇心、一歩踏み出す向上心、0から1を創り出すことや、既存のものとの掛け合わせでつくる創造性を育む教育の必要性を感じ、本事業を行う。</p>	<p>子どもが、自分の興味のあることについて調べ、考え、そして専門家の意見を聞いたり、お友達と話し合ったりし、動画で表現することで、子ども自身が、仮説をたてながら行動し、考え、その子なりの概念化をし、更に仮説を立てながら学ぶプロセスを楽しんだ。オンラインでは、題材も様々で、生物、料理、健康など幅広い分野で学び合い、意見交換を楽しんだ。</p> <p>このプログラムを通して、子どもたちは、①自分や仲間の「できる」を信じる②個々人のペースを待つ③のびやかに自分を表現できる環境をつくるという、リーダーシップに必要な能力を養うことができた。</p> <p>経験を活かして、更に地域で何かやってみよう！というエネルギーになり、行動を起こしている子どももいる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>チャレンジ動画制作 11名</p> <p>のぞいてみよう！ミクロの世界 8名</p> <p>あそこにもここにも微生物！？ 6名</p> <p>かわさきマイスターとつくろう！My 門松 7名</p> <p>自由に作ろうオリジナル蒸しパン 6名</p> <p>毎日の食事がつくる私のカラダ 4名</p> <p>薬剤師さんと学ぶ、自分のカラダと健康 3名</p>	<p>事業の目的を果たしつつ、集客も見込めるプログラムを選ぶことが課題である。今回の結果を踏まえ、ニーズに合った講座を選び、ブラッシュアップさせて、質の高い探求学習の場を、継続可能な形で提供できるようにする。</p>



チャレンジ動画制作 料理チーム

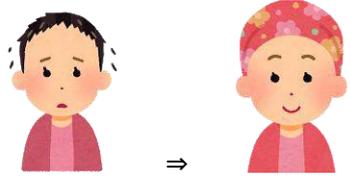


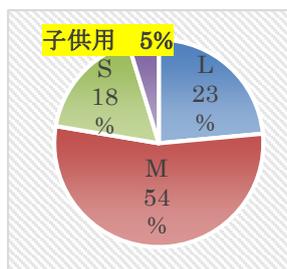
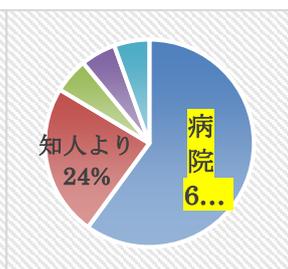
チャレンジ動画制作 発表会



オンライン、のぞいてみよう！ミクロの世界

団体名	神奈川骨髄移植を考える会
事業名	医療用ケア帽子「コットンキャップ」

目的・背景	事業の効果
<p>抗がん剤治療による脱毛は目に見えてわかるとてもつらい副作用で、そのことで社会活動から遠ざかることもあります。がん患者も社会の一員として活動してもらいたい。</p> <p>安価で肌に優しく、手作りの温かみを感じるコットンキャップと共にエールを送りたい。</p> 	<p>【ニーズ調査】</p> <p>モニターアンケート回答から、エールが届いていることを実感。「支援者たちの応援が勇気になります。ケア帽子っぽくなく可愛くて気に入っています。今後の治療も頑張れます」等。</p> <p>【作り手 10 名募集】</p> <p>「誰かの役に立っていると思うと嬉しい」「家で楽しみができた」「キャップだけではなく、もっと患者さんを支援したい」との感想。作り手登録率も 8 割で、参加者の満足度は高く、支援の輪が広がった。交流会では、活発な意見交換ができて、仲間とのコミュニケーションが増えていることを実感。新商品の提案にも発展している。</p>

実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>【ニーズ調査】モニター86件の応募／募集100件(データ抜粋)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>サイズ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>チラシ入手先</p>  </div> </div> <p>子供用ニーズ多く急遽商品展開。病院との連携必須。</p> <p>その他、色や肌触り、価格など、今後の商品開発に有用なご意見を集めることができ、商品を絞り込めた。事業の必要性を実感。</p> <p>オンラインショップを開設し、12個の販売につながった。</p> <p>【作り手 10 名募集】3 回の作り手教室を実施。20 名に増加。作り方動画の作成により、いつでも確認・復習ができるようにした。</p>	<p>販売について 患者支援の新提案、新商品の考察。種類が多くなった時の在庫管理や出荷方法。</p> <p>HP の充実 https://cottoncapjimdoofree.com/</p> <p>オンラインショップの充実 https://cottoncap.base.shop/</p> <p>作り手 公式ラインや交流会により、気軽に参加・交流できるような工夫、商品の受け渡しや新商品開発も楽しみながら継続。今回の川崎モデルを基盤にして、全国へリーチを高める。講演会や他団体とのコラボを増やし、販路を広める。</p> <p>助成金のおかげで事業を 1 年でスタートさせることができたので、助成金を卒業し自立していく。</p> 



キャップの配送セット



手作りされたコットンキャップ



大盛況の作り方教室

団体名	認定NPO法人フリースペースたまりば
事業名	コロナ禍における子ども・若者・その家族のための交流拠点づくり

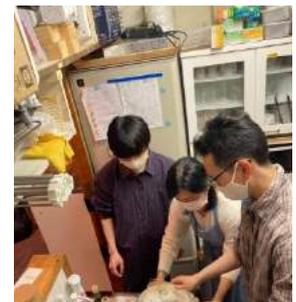
目的・背景	事業の効果																		
<p>■ビジョン: 困窮・孤立世帯の子ども・若者が安心して「暮らし」「学び」「育つ」ことを見守り、支える地域づくり。</p> <p>■ミッション: コロナ禍で更に困窮化、孤立している子ども・若者・その家族が安心して集い、参加できる場所を地域に開く。</p> <p>実施結果</p> <p>① 日常に来場する子ども・若者延べ人数 7月～3月 合計 866名 1日平均 8名</p> <table border="1"> <tr> <td>7月</td><td>8月</td><td>24名</td><td>9月</td><td>82</td><td>10月</td><td>148</td><td>11月</td><td>119</td></tr> <tr> <td>12月</td><td>140</td><td>1月</td><td>102</td><td>2月</td><td>87</td><td>3月</td><td>161</td><td></td></tr> </table> <p>② イベントの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども☆きっさ ボランティア 毎月24名×8か月 192名 ・みんなでキッチン チャレンジ・ラボ 合計70名(13回) <p>③ 運営担い手</p> <p>ボランティア 学生若者 10名 地域の方 5名 寄付「子ども☆きっさ」を応援するチャリティ T シャツの売り上げ当初の目標金額を上回る364,700円を達成。 ※公式LINE登録者 250名</p>	7月	8月	24名	9月	82	10月	148	11月	119	12月	140	1月	102	2月	87	3月	161		<p>① 子ども・若者にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって マスターやボランティアスタッフなど多様な人と関わりながら、地域の中に安心できる居場所ができた ・若者たちは、子どもと接しながら自分の役割を持ち、学びながら自己成長させる機会となった。 <p>② 地域にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に立ち寄るコーヒーを楽しむ場として、地域のママが赤ちゃん、未就学児連れで利用され、高齢者の方は寄付や寄贈をくださり、コミュニティカフェを中心に多世代交流と小さな循環が生まれた。町内会掲示板に毎月のえんくろのカレンダー掲載を許可いただいた。 ・地域の農家の方が定期的に自分の畑で取れた野菜を届けてくれたり、企業が社内活動として、おもちゃや本を届けてくれる取り組みを始めたり、行政、地域企業、地域 NPO、学生ステークホルダーが緩やかに繋がったと言える。 <p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国圏の親子、障がいを持つ人、一人親家庭の利用が予想以上に多かった。特に支援が必要な家庭に登録してもらい、個別のニーズを把握した上で対応していく。 ・多様な若者が関わってくれることにより誰もが利用しやすいコミュニティを形成していくとともに、若者たちが安心できる居場所としてより成長を促す居場所として活動していく。 ・地域との連携(
7月	8月	24名	9月	82	10月	148	11月	119											
12月	140	1月	102	2月	87	3月	161												



子ども☆きっさ



チャレンジ・ラボ 珈琲の淹れ方講座



みんなでキッチン

団体名	川崎盛盛祭実行委員会
事業名	川崎盛盛祭

目的・背景	事業の効果
<p>近年川崎市の目指すリノベーションまちづくりという構想に則り日進町の古い簡易宿泊所がリノベーションされて外国人観光客や女性も宿泊しやすい施設が増えてきました。京急の高架の壁に壁画アートを描いたり、八丁駅前の公開空地を使った神奈川大学と連携したイベントなど、官民連携の取り組みが進む地域です。</p> <p>羽田空港から川崎殿町にかかる橋も出来上がりつつある中、コロナ後のインバウンド再開も見据えて、今年出来ることとして国内、まずは川崎市民に向けたオモシロイ街づくりの事例のPRとして、イベントを開催したいと考えています</p>	<p>コロナ禍を経て、インバウンドを見据えたイベントと共に地域や川崎のブランドづくり、街の仲間づくりという要素を加えて起業したい、アートを展示したいなど、アウトプットの場としてデビューを飾れるようなイベントとしていきたいと考えていますが、これまでのイベント開催では、収支が合っていません。助成金を活用しながら継続することで、仲間となるプレイヤーを増やし、その後自走して継続、発展していける取組としてための事業スキーム(イベント出店料、地域のお祭として地元企業PRの協賛金を募る形などを)今後確立したいと考えています。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>イベント自体は中止となりましたが、</p> <p>なにより、イベント開催が核となって小学校とは3カ年計画、2021年度はポスター掲示により学校の活動を町の人に知ってもらう。2022年度はイベントの企画に参加、2023年度はイベントへの出店を目指すべく校長先生と打合せができました。</p> <p>京急八丁駅前の空地では京急急行電鉄株式会社さんと神奈川大学さんとの空地活用の取り組みとも連携してこうと打合せができました。福祉施設ふくふくはさん2020年度に開設された新しい施設の為地域のイベントお祭りには積極的に参加したい意向をお伺いできました。簡易宿泊所エリアではリノベーションされた宿泊所さんが増えてきておりイベントに参加してキレイになったことをPRできたらという意向をお伺いできました。</p>	<p>本番こそ出来なかったのですが、施設内のイベントは開催されました。やる前にこれ程とは想定していなかった、「みんな思った以上に期待して楽しみにしている、なんなら積極的に参加したい」という意向を今回参画頂いた施設側、出店者さんからお聞きできました。</p> <p>この盛盛祭が地域のHUB(ハブ)的な役割を我々実行委員の独りよがりな思いだけでなく地域としての実行、継続を期待されていることを感じる事ができました。</p> <p>3年、5年先にはインバウンドが復活したときにも向けて継続していきたいと思っています。</p>



中止の案内掲示



福祉施設内での紙芝居



京急八丁駅空地前アンケート

団体名	川崎市アマチュア無線情報ネットワーク
事業名	災害による大規模停電時でも、アマチュア無線で繋がる安心安全 (川崎市アマチュア無線非常通信協定 25 周年記念局事業)

目的・背景	事業の効果										
<p>近年、自然災害で広域的な通信障害が発生するケースが見受けられます。</p> <p>私たちは、アマチュア無線を趣味として楽しむため、日頃から無線機、アンテナ及び非常電源を充実させており、通信障害が発生しても、アマチュア無線を使って市内の被災情報を収集し、市が会員宅に設置している移動系防災行政無線機(2 台)を使って、市危機管理室を通じて消防や警察等へ伝達できる体制を構築しています。</p> <p>2021 年は、市と当会が災害時の協定を締結して 25 周年を迎えるため、それを記念する特別のアマチュア無線局を開設・運用し、災害時の協力を呼び掛けました。</p> <p>また、資格をもたない人がアマチュア無線の運用を体験できる「体験局」を開設し、防災イベント等で広く市民に体験していただくことにより、アマチュア無線の魅力を発信するとともに、無線技術への興味関心を醸成し、災害時への活用の理解を求めました。</p>	<p>① 体験者からの反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ほかの友達にも体験してもらいたいのので、学校でも体験運用を実施してほしい。 来年も実施してほしい。 アマチュア無線のプロの皆さんがテキパキと設営や交信している姿を見て頼もしく感じた。 <p>② アマチュア無線界からの反響</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災イベント「備えるフェスタ」に日本アマチュア無線連盟の会長と広報大使がアポなしで来訪し、体験運用に参加 アマチュア無線最大手の月刊誌「CQ ham radio」に掲載 他地域のアマチュア無線クラブが、当会を参考に類似の防災組織を作りたいとして、情報交換を継続することとした。 複数の地域から、体験局の開局と運用の方法についてアドバイスを求められた。 										
実施結果	事業の課題と今後の展望										
<p>① 8J1KWSK(川崎市アマチュア無線非常通信協定 25 周年記念局)の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交信数 2, 074回 ・交信したアマチュア局の数 1, 114局 <p>② 8J1YAF(アマチュア無線体験局)の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用回数 5回 ・体験者数 45名 <table border="0"> <tr> <td>高津どんなもんじゃ祭り</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>市の担当部長と記念交信</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>大規模マンション自主防災組織とのコラボ企画</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>備えるフェスタ2022(ラゾーナ川崎プラザ)</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>市民館ジャック(幸市民館)</td> <td>20人</td> </tr> </table>	高津どんなもんじゃ祭り	5人	市の担当部長と記念交信	1人	大規模マンション自主防災組織とのコラボ企画	5人	備えるフェスタ2022(ラゾーナ川崎プラザ)	14人	市民館ジャック(幸市民館)	20人	<p>① 記念局の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営ノウハウが蓄積されたので、次年度以降も自己財源を使って記念局の開設・運用を行いたい。 ・2022 年度の「川崎市政令指定都市 50 周年記念局」は市の後援が得られず実現できなくなったが、2023 年度は「東海道川崎宿成立 400 周年記念局」、2024 年度は「川崎市制 100 周年記念局」を想定し、準備を進めたい。 <p>② 体験局の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験者とメンバーの双方から喜ばれた。今回、運営ノウハウが蓄積されたので、次年度以降も自己財源で、市、区、自主防災組織等が行う防災訓練や防災イベント、教育委員会や学校等と連携した体験会等を展開したい。
高津どんなもんじゃ祭り	5人										
市の担当部長と記念交信	1人										
大規模マンション自主防災組織とのコラボ企画	5人										
備えるフェスタ2022(ラゾーナ川崎プラザ)	14人										
市民館ジャック(幸市民館)	20人										



アマチュア無線の体験(高津区役所にて)



アマチュア無線の体験(ラゾーナ川崎プラザにて)



アマチュア無線最大手の月刊誌に掲載

団体名	モモの会
事業名	傾聴電話「モモの会」

目的・背景	事業の効果								
<p>経験したことのない世界的パンデミックで、それまでの日常生活が失われ、外出の機会が無くなり、孤独感やストレスを抱えている人達、おしゃべりする機会が無くなり寂しさを感じている人達、相談相手のいない人達、子育てに悩んでいる人達、特に一人暮らしの高齢の人達、病気でなんの楽しみもないと嘆く人達、生きていてもしょうがないと嘆く人達と電話で話すことで、少しでも気持ちが楽になった、ストレスが発散できたと思って貰いたい。生きる希望を持てるようになって貰いたい。</p> <p>さりげないおしゃべりが、日常生活の中でどんなに大切かを感じる事ができ、できるだけ早く地域の行事や集りで人々との交流を楽しむようになりたいと思う人が増えること、明るく笑顔で過ごし、住みなれた地域でいつまでも住み続けたいと思う人が増えていくことの助を担いたいと思っている。</p>	<p>施設にいて、孤独になっていた生活に楽しみができたモモの会に繋がったことを喜んでくれている人、一人で悩んでいたがどんな話も聞いてくれると分かると、長年抱えてきた辛い話をして、元気になってきた、独りぼっちじゃないという人がいる。家族にも言えない話も遠慮なく話すことで家族への考え方が変わったという人もいます。病気で何の楽しみもないと嘆いていたが、徐々に明るくなってきている人、介護を受けていても、デイサービスに通っていても、繰り返し話をするうち自己肯定感を持てるようになってきたという人もいます。対人関係の不満を一時的に繰り返し話しているうち、気分がスッキリしてきた気分転換を上手く出来るようになってきた人がいる。別世帯の息子、娘さんからの依頼で会員から毎週電話をしている方々は、電話を貰うのが楽しみと、一人暮らしに少し明るくなってるそうです。</p>								
実施結果	事業の課題と今後の展望								
<p>2021/4/1～2022/3/23</p> <p>受電数：297件 架電数：331件</p> <p>いずれも目標数には達していないが、確実に昨年より増加。</p> <p>電話でのアンケート</p> <table border="0"> <tr> <td>☆モモの会に電話しての満足度</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>☆相手に受容して貰えと思うか?</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>☆話しやすかったですか?</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>☆モモの会を必要と思いますか?</td> <td>95%</td> </tr> </table>	☆モモの会に電話しての満足度	90%	☆相手に受容して貰えと思うか?	90%	☆話しやすかったですか?	87%	☆モモの会を必要と思いますか?	95%	<p>電話の(受電、架電)の件数が目標より少ない為、区役所地域支援担当の方の協力で更に広報を拡げていく。未だ知らせていない町内会や老人福祉センター、生活保護課にも連絡する。今年度の効果を今まで配架をお願いしていた部署に伝え更に広めて貰う。電話の通話料が無料であるので、どんな状況にいる人達からも電話を受ける事ができているが、自立の面ではあまり進展がない。、来年度は5割を目標に市民活動センターでの企業との話し合いに参加し連携や様々な可能性を考えていく。賛助会員、寄付等についてはチラシの他、講演会、ごえん楽市、なかはらっぱ祭りに参加し、箱を用意して呼びかけていく。2年後までに自宅で行う傾聴についての有料化のシステムと有料で行う話し合いの場を設定して電話の利用者さんにも声をかけていく。</p>
☆モモの会に電話しての満足度	90%								
☆相手に受容して貰えと思うか?	90%								
☆話しやすかったですか?	87%								
☆モモの会を必要と思いますか?	95%								



講座「電話相談員養成講座」6/17, 7/15



『講座電話傾聴の基本を学ぶ』10/21, 11/18



私たちがお電話待ってます♪

団体名	みんなのさいわい
事業名	NPO・地域団体へのプロジェクト型中間支援

<p>目的・背景</p> <p>地域課題の解決を目指して活動している NPO・地域団体の基盤強化をプロジェクト型で支援することにより、社会貢献活動の広がりを促進していきます。</p>	<p>事業の効果</p> <p>① 支援先は、課題解決のための成果物入手できます。 ② 支援先は、プロボノ チームとのやりとりの中で多くの気づきを得られます。 ③ 支援先のメンバーや支援先のステークホルダーへのヒアリングを丁寧に行うことにより、支援先の活動がやりやすくなります。 ④ プロボノワーカーは、自分の能力を活かしつつ、新たな経験、より広い知識や人脈などを得ることができます。</p>
<p>実施結果</p> <p>① 支援先のコメントです。「NPO の広範囲な活動を、よく理解されて対応して頂けました。2 年続き対応頂いているので、より活動に合った助成金の方向性を見出していると思います」 ② 支援先のコメントです。「どの方向が良いか定まらなかった部分を、ディレクション頂いた事が良かったです。また、NPO メンバーの意識も転換を計れたように思います。」 ③ 該当するコメントは、ありません。 ④ プロボノワーカーのコメントです。「助成金の申請書作成は想像していた以上に難しく、チームで意見を出し合って仕上げていく過程は、苦労もありましたが、楽しさや達成感を感じることもできました。」</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>① 2022 年度に開催予定の「プロボノ・ファンドレイジングセミナー」を活用したり、川崎市内のイベント(ごえんカフェなど)に参加して、川崎市内の支援先候補が常に、数団体あるような状態を作りたいと思います。 ② 2022 年度をもって、かわさき市民公益活動助成金を卒業しますので、卒業後を見据えた経費管理及び収入の増加を図る方法を検討していきます。</p>

		
NPO トレリスとチームの会議	社会貢献きっかけセミナー:1/9	医療法人村上脳外科とチームの会議

団体名	ニケ領用水クリーンアップ協議会
事業名	ニケ領用水一斉清掃 2021

<p>目的・背景</p> <p>ニケ領用水竣工 400 年行事でニケ領用水の一斉清掃を実施したが、その後行われていなかったためニケ領用水に関わる団体に呼び掛けて協議会を立ち上げて、ニケ領用水の一斉清掃を実施して 5 年目で有る。各団体の協力及び専修大学の課題解決型インターンシップの学生と一丸となり一斉清掃を行ってきたが、昨年コロナの関係で専大のインターンシップの学生が参加出来ないことから各団体のみの参加となったが、今年は、町内会にも働きかけて 1 町会が参加出来た。</p>	<p>事業の効果</p> <p>緊急事態宣言のコロナ禍ではあったが、6 団体及び 1 町内会の参加があった。今年は、タウンニュース等に掲載されたこともあり、高校生の参加が多かった。</p>
<p>実施結果</p> <p>コロナ禍ではあったが、7 カ所 7 団体が主体となり 203 名の参加があった。今年は子供の参加が 15 名であった。ゴミの数は、收拾ゴミ袋の 30ℓ換算で 99 袋有った。 (参加人数内訳) 多摩区、3 カ所、3 団体・118 名 高津区、2 カ所、2 団体・ 39 名 中原区、1 カ所、1 団体・ 25 名 幸 区、1 カ所、1 団体・ 21 名 合計 203 名</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>今年は、従来から参加のあった町内会が、他の団体の助けを得ずに独自に対応することが出来た。今年で 5 年目となり、行政のバックアップもあり来年度からは行政主体で行っている多摩川の一斉清掃と同じ日に開催することを検討していることから、市民活動センターの申請は行わない。</p>



団体名	NPO法人多摩川エコミュージアム
事業名	親子で多摩川の流れと自然を感じ取るラフティングボート体験会の実施(5月～9月)

目的・背景	事業の効果
<p>事業予算:100万(かわさき市民公益活動助成金 80万)</p> <p>内容:親子でラフティングボートで中州にわたり、ボートのパドル操作と小田急鉄橋・多摩水道橋間の周回ラフティング。ガサガサ(魚とり)、投網体験野鳥や植物、石の観察など夏の多摩川を楽しむ</p> <p>実施時期: 5月から9月迄毎月第2土曜日 (8月のみ第1土曜日) 計5回の開催</p> <p>コースは宿河原堰上流のせせらぎ池より小田急鉄橋下の中州に渡り各種の学習・体験活動を1時間行い、交代でボート乗船時間30分のラフティング体験を行いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しむ自然体験として、自宅近くの多摩川で自然観察や水遊びが出来ることを十分に知ってもらえた。 ・6月の体験の様様を SNS(ツイッター・YouTube)で拡散してもらえた結果が7月の募集結果に繋がった。 ・ボランティアスタッフの募集も行い7月までに3名の応募があり、9月まで実施できていればと悔やまれる。 ・アンケートで参加費の値上げを大人3000円子供2000円までは問題ない内容と支持された。 ・下見会(5月)から7月まで中州で採取した魚たちの成長を見ることが出来た。これを子供達に体験させる企画も今後の課題として期待できる。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で5回の開催予定が2回実施、3回中止となった。中止となった3回の天候は全て晴れ、コロナでなければ全て開催できていました。 1回目 5月 東京・緊急事態、神奈川・蔓延防止で中止 下見会 5月 コース変更の為コース下見会の実施 2回目 6月 8組 17名参加、スタッフ24名 3回目 7月 17組35名参加、スタッフ34名 4回目 8月 東京・神奈川に緊急事態宣言で中止 5回目 9月 東京・神奈川に緊急事態宣言で中止 ・2・3回の申し込みは了解とも定員の3倍の申し込みあり。3回目は申し込み開始から30分で20組が埋まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年からの開催中止要因で悪天候が上げられますが、これは延期し翌週に開催する場合のスタッフ不足が理由でもある。開催内容の再検討を行い、中止ではなく延期してでも開催する計画を作成する。 ・親子で楽しむラフティングをメインにしなが、継続した自然観察についてもテーマとして、3年目以降の自主運営につなげたい。 ・次年度はコロナが落ち着くの待ちながら、ボランティアスタッフの募集と育成を行います。



親子で気持ちを合わせて上流へ



いろんな魚が採れました



投網も大きく広げてエイ！！

団体名	かわさき子どもの権利フォーラム
事業名	子どもの権利条約フォーラム 2021in かわさき

目的・背景	事業の効果
<p>日本で初めて子どもの権利の総合条例として制定された「川崎市の子どもの権利に関する条例」が施行されてから 2021 年で 20 年を迎える。20 周年の記念行事として「子どもの権利条約フォーラム 2021 in かわさき」を企画した。</p> <p>条例制定が施行されてからの 20 年で子どもを取り巻く環境は、どのように変わってきたのか。川崎市で創られた子どもの権利条例の仕組みをあらためて共有し、子どもの権利について考え合う機会とする。また、子どもの権利の理念を川崎市内ばかりでなく、全国の条例づくりに取り組んでいる自治体や研究者、あるいは、これから取り組もうとしている自治体などに声をかけて、子どもの権利の普及・啓発に寄与する大会を川崎市で行う。</p>	<p>実行委員会には個人80人超、21団体が参加した。11月6日、7日の大会には、全国(1都1道8県)からオンライン配信を含め、2日間で延べ1600名を超える参加があった。7日の分科会には、市内外の子ども支援団体と連携し22の分科会を開催することができた。また、この大会には、川崎市、川崎市教育委員会、一般財団法人川崎市教職員会館、川崎市教職員組合、一般社団法人地方自治研センター、川崎市 PTA連絡協議会、川崎市青少年育成連盟、川崎市子ども会議推進委員会、川崎市地域教育会議行政区議長会が共催し、協力団体も、法務局川崎支局のほか、NEC、フロンターレ、ガッコム、ダンウエイ、ミュージックマーケットなど市内の様々な民間企業の参加があり、「子どもの権利」の認知度に大きな波及効果があった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>タウンニュース(3度)、東京新聞(2度)、神奈川新聞、イツコムテレビニュース(2度)などに複数回取り上げられ、おとな子どもたちの「子どもの権利条約」や「川崎市の子どもの権利に関する条例」の認知度が向上した。</p> <p>今回、川崎市内の子どもたちの参加を募り、大会運営や分科会運営に子どもたちが携わることで、子どもたち自身の意見が尊重され、活かされることで子どもたちは自分のもつ力に自信を深めた。</p> <p>また、川崎市オンブズパーソンや川崎市人権擁護委員協議会、CAP かながわなどが参加することで、相談の仕方やいじめ、児童虐待の実態を知り、暴力から自分の身を守る方法を広く市民に知らせることができた。</p> <p>さらに、外国人児童生徒の支援団体、障害のある子どもの権利を守る支援団体、乳幼児の子どもの支援団体など、様々な団体が参加し、子どもの支援について理解を深め、支援団体同士の連携強化ができた。また、協賛金募集などの活動を通して、民間企業と連携できたことで、市内の企業にも「子どもの権利の理念」を広めることができた。</p>	<p>今年度行った事業を報告書にまとめ、参加した団体、個人に2月中に配布した。この報告書は、今後 HP でも配信し、川崎市内外の子ども支援に携わる人々の基礎資料となるように考えている。</p> <p>今後、本大会で話題になった「子ども庁」や「子ども基本法」について講演会を実施し、さらに啓発活動を継続していく予定である。その際、子どもの権利条約フォーラム 2021in かわさきに実行委員、子どもグループメンバー、参加団体・個人などにも参加を呼びかけ、大会を通して培った連携を生かしていきたいと考えている。</p> <p>2022 年度の子どもの権利条約フォーラムの開催地は沖縄に決定した。今年度参加した川崎市内の子どもグループのメンバーが引き続き全国の子どもたちとの交流を望んでいるので、沖縄の子どもたちとの交流を実現させ、子どもの権利の普及・啓発活動を子どもたちの手で継続していきたい。また、今後、子どもの権利の日事業には、実行委員としてかわかり、今回の経験を活かした発信をしていきたいと考えている。</p>



80人超参加 第1回実行委員会



11月6日全体会で全国の子どもたちと語る



11月7日22分科会の運営とクロージング

団体名	一般社団法人 ピッカ
事業名	児童養護施設と周辺地域に於ける文化芸術ダンス及びアート&ミュージックの定期学習と発表会事業

目的・背景	事業の効果
<p>■児童養護施設の入所者が、「ダンス」「アート」「音楽」等の文化芸術を学習することは、経済的に非常に困難だ。入所者、及びショートステイ等の利用者、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童、そして近隣の学校や各種施設の子どもたちに、世界を舞台に活躍している芸術家が直接、中長期間で定期的な指導を行い、最終段階としては舞台上での発表を目指す。■単発で一過性のイベント的な機会では無く、持続性を持って指導し、子どもたちに「やり遂げる喜び」を得て貰うことを目指す。興味本位で始めても簡単には出来ないことも多く悔しさも感じるだろう。より真剣に取り組むことへ向き合えないといけない。それらを克服し、1つの目標を達成することで自信を持てるようになる。</p>	<p>■文化芸術を学習すること、大きなステージ/舞台に立って発表&お披露目することを、経済的な理由で諦めている子どもたち、そして心に傷を持った子どもたちに、「やり遂げる喜び」を与え、将来の夢や希望を持たせる。■また、世界を舞台に活躍する芸術家のパフォーマンスや指導を地域の福祉システムと連動/協働することで、その触れ合いはより市民や各団体に身近に親密になり、子どもの将来が生まれ育った環境で左右されない子どもの貧困対策としても、共生社会を目指すインクルージョンとしても、本事業は1つのモデルケースの推進へと繋がる。■コロナ禍での教室開催対策として状況に応じたオンライン及びリモートでの実施準備と対策も進める。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>ステージ上でのパフォーマンスを複数曲、もしくは6分間以上お披露目出来るよう計6回の履修。結果 → 3/4 宮前市民館大ホールでの発表会にて、★マジックコース:6名履修:・ステージ上で5分間、3つの演目を披露することが出来た。★剣舞コース :3名履修:・ステージ上で2分間、♪「敬刀ノ舞 けいとうのまい」を披露することが出来た。★ミュージカルコース :4名履修:・ステージ上で、♪ ピアワアーゲスト～ミュージカル「美女と野獣」より～を披露することが出来た。★ダンスコース:11名履修:・ステージ上で、♪ダフト・パンク「Lose Yourself to Dance」を披露することが出来た。★ギターコース:5名履修:・ステージ上で、♪まふまふ「命に嫌われている。」と、♪「Let it go」を披露することが出来た。●ホール観客席には愛児園施設職員及び関係者、ご招待客を含め、計97名の観覧者数だった。</p>	<p>■県内の IT 関連企業等はコロナ禍の影響によって、各社共にCSRや福祉関係を組めた社会貢献への予算が大幅に縮小、もしくは全面カットとなっている。■その為、支援や協賛を具体的に示してくれるところは現時点では残念ながらゼロである。■ただし、次年度の開催に向けては、『児童養護施設「川崎愛児園」に於ける文化芸術の定期学習と発表会事業』として申請した「令和4年度 キリン 地域のちから応援事業」での採択が決定した。またその事業の発表会に関しては「神奈川子ども未来ファンド 2022年度 助成事業」に申請中で結果待ちの状態だ。■今年度の参加者全員(子どもたち&施設職員及び関係福祉指導員)から「次年度の開催」に関して訊ねられ、そのリクエストに応えたいとスタッフ&講師、ご協力頂いた関係各位含め、その一同で現在は企画検討中である。★採択して頂き、本当にありがとうございました。</p>



大ホールでの発表会 ギターコース On Stage



剣舞コースのパフォーマンス!



ダンスコース! みんなで Let's Dance!!

団体名	いろえんぴつプロジェクト
事業名	いろえんぴつ劇場「学校の体育館がみんなの劇場になる日」

<p>目的・背景</p> <p>生活環境や経済の格差によって、感受性を育む体験、心の成長を育む機会に恵まれないまま成長する子どもが増えていく現代社会において、「関係性の芸術」と言われる演劇や、「心と体を自由に解放できる」音楽やダンスを通して、想像力の豊かさ、多様性への共感力、自分らしい表現、そうした「生きていくエネルギー」「自らを表現する力」を育む場を、誰もが参加しやすい地域の中につくって行くことが本事業の目的である。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料で体験でき、障がいや年齢に関わりなく誰もが来られる場所で芸術体験、表現活動ができる ・異なる能力を持つ人たちが連携することで、限られた条件の中でもクリエイティブな現場づくりが可能であることを知ってもらえる ・「情報」を得ることよりも、「体験」をすることこそが、内面に変化をもたらすことを実感してもらうことができる。 ・障がいの有無に関わらず、ひとつの時間空間を共有しながらつくりあげることの豊かさを知ってもらえる ・多様なクリエイターや専門家の活動の一助になる
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍での対応を余儀なくされたが、できる限りの対策を行い、無事に体育館での公演を実施することができた ・コロナ禍は続いており、観客数の激減も予想されたが、結果的に例年と変わらない多くの観客が来場した（純粋観客数159名 ダンス参加、関係者含め198名） ・有観客ではあったが、今後のためのテスト配信として舞台のライブ配信を関係者限定で行った ・恒例の、ダンスシーン一般参加では、年齢もさまざまに子ども、大人が混じり合い、障がいのある人も参加した。レッスンを通じて互いに思いやれるひとつのチームになった ・協力団体、クリエイティブパートナーとは、より連携力を高めることができ、そこからダンス参加者によるカウントダウン動画の配信が生まれた ・SNS広報に力を入れ、団体発信とクリエイティブパートナー等関係者による投稿は、公演前～公演直後まで、200投稿 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中原区以外での体育館公演を実現するために、学校と結びつきが強い、他区の寺子屋事業運営団体とも連携を取りたい。中原区の寺子屋事業との成功事例から、そのノウハウを生かして行きたい ・力を入れて来た広報ではあるが、限られた人手の中では、できることに限界がある。広報や制作に興味を持つ人の掘り起こしを積極的に作り、広報チームの強化を図りたい ・協力団体、クリエイティブパートナーとの連携をさらにステップアップさせるため、パートナーが取り組むことにはいかにプラスになる関わりができるか考えながら、コラボレーションの企画を立てて行きたい ・支援者につながる、潜在的なサポーターを掘り起こすための企画に力を入れたい ・団体の活動を持続可能にして行くための資金力の自立性を高めるため、ネットショップ以外に収益をあげるプランを作り、実行して行く



小劇場で行ったダンスイベントにて、参加者による「公演まであと〇日！」のカウントダウン動画を撮影し、ツイッターで配信。

新たなキャストを迎え、コロナ禍の中で万全の体制で望んだ舞台公演。歓声をあげる代わりに来場客が拍手、足踏みで劇に参加するシーンも演出し、会場が一体となった。

公演の名物ともなっている、観客が客席を飛び出して踊り出す、ダンスシーン。公演終了後の皆の笑顔には、達成感が溢れている。

団体名	セカンドライフ支援研究会
事業名	リボンワークショップ

目的・背景	事業の効果																																																								
<p>コロナ禍で増加している手作り体験欲求にこたえるため、3500社弱の製造業事業者が存在する川崎市のリソースを活用し、住民参加型の端材工作ワークショップ（端材を新しく生まれ変わらせる『リボン』ワークショップと命名）を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・端材を提供してくれる企業と、その端材を活用した作品サンプルの開発、さらに、そのサンプルを参考にした工作ワークショップを複数回開催したことで、下記効果を想定していた。 ・企業側は、端材を廃棄するのではなく、新しい活用方法を認識していただく。 ・クリエイター側には、端材を活用した、新たな作品作りに挑戦していただく。 ・一般人は、捨てられる材料に新たな価値を付加できる喜びを感じていただく。 																																																								
実施結果	事業の課題と今後の展望																																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ開催 9回 ・ワークショップ参加企業 合計 5社 ・参加人数 合計 約 500人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>場所</th> <th>内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月2日</td> <td>中原平和公園</td> <td>メタルパッチワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ミニロボット</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月20日</td> <td>登戸街中アート</td> <td>スマホスピーカー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月17日</td> <td>多摩SDC</td> <td>割り箸テッポウ</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>12月12日</td> <td>モトスミ</td> <td>毛糸等ゆるキャラ</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>1月12日</td> <td>片平</td> <td>ふらつとリビング 割り箸テッポウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月22日</td> <td>平間小学校</td> <td>割り箸テッポウ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>約 400</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月12日</td> <td>中原市民館</td> <td>スマホスピーカー</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>2月13日</td> <td>中原市民館</td> <td>毛糸等ゆるキャラ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>ダンボールパッチ</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	日付	場所	内容	参加者数	10月2日	中原平和公園	メタルパッチワーク		14	ミニロボット	24		11月20日	登戸街中アート	スマホスピーカー		20				12月17日	多摩SDC	割り箸テッポウ	15	12月12日	モトスミ	毛糸等ゆるキャラ	20	1月12日	片平	ふらつとリビング 割り箸テッポウ		17				1月22日	平間小学校	割り箸テッポウ		約 400				2月12日	中原市民館	スマホスピーカー	8	2月13日	中原市民館	毛糸等ゆるキャラ	4	同上	同上	ダンボールパッチ	7	<p>●課題 コロナ禍での開催であったため、集合してのイベント等に関する企業からの協力がそれほど多く、得られなかった。</p> <p>●今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協賛企業数の拡大 ・ワークショップ実施機会の拡大 ・参加者数の拡大 ・制作される作品数の拡大 <p>・今年度は、上記目論見を実現する為に、団体主催のイベント(複数のワークショップの一堂に同時開催)を企画する。</p> <p>・制作された作品の展示会等を実現したい。</p> <p>・参加申込の受付をシステム化したい。</p> <p>・参加者のアンケート取得をシステム化したい。</p>
日付	場所	内容	参加者数																																																						
10月2日	中原平和公園	メタルパッチワーク																																																							
14	ミニロボット	24																																																							
11月20日	登戸街中アート	スマホスピーカー																																																							
20																																																									
12月17日	多摩SDC	割り箸テッポウ	15																																																						
12月12日	モトスミ	毛糸等ゆるキャラ	20																																																						
1月12日	片平	ふらつとリビング 割り箸テッポウ																																																							
17																																																									
1月22日	平間小学校	割り箸テッポウ																																																							
約 400																																																									
2月12日	中原市民館	スマホスピーカー	8																																																						
2月13日	中原市民館	毛糸等ゆるキャラ	4																																																						
同上	同上	ダンボールパッチ	7																																																						



メタルパッチワーク/メタルミニロボット



割り箸テッポウ/算数ゲーム



スマホ対応ウッドスピーカー



毛糸/端布でゆるキャラ



ダンボールパッチ

団体名	コスギアート ラ・ファブリカ実行委員会
事業名	”誰もができるアート体験” 街ナカアート 2021

目的・背景	事業の効果
<p>2020 年はコロナ渦という事もあり、野外での地域活動、体験活動が圧倒的に不足し、成長期子ども達に必要な「体験活動」を充分に行えない事は重大な「機会の損失」にあたると思う。自然豊かな中原平和公園の野外音楽堂を利用する事で、文化的な体験活動と野外で自然に触れる事の両方を、参加した子ども達に提供できると考える。アートを手法とし「誰でもできる」をテーマにする事で、新しい文化活動への興味と関心を呼び起こしたい。</p> <p>同じく、開かれた公共空間で本来行われるべき地域の祭りも、2020 年はほぼ行われなくなり、このような状況が続くと、地域コミュニティのさらなる希薄化は避けられなくなる。開放的な「屋外」で、コロナ感染防止策を徹底した上でイベントを開催する事で、そこに集う近隣地域住民とのコミュニケーションの場作りを行うと同時に、運営に携わる側も、それぞれに主体的な活動を行う多様な団体による、協働・連携の推進を図ることを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した子ども達の「情操教育への手助け」と、「新しい文化活動への興味関心」を得る機会となった。 ・近隣の地域住民に向けて、公共空間としての「広場」「公園」という開かれた場で行われる地域活動への新たな参加機会を提供できた。 ・代表団体とコラボ団体以外にも、広く区内で主体的活動を行う複数の団体に参加を得て、このフェスティバルをきっかけとして、多様な主体が繋がり合う活動が深まり、コミュニティ全体へ協働・連携していく事の意義が波及することができた。 ・アートを手法に一、般参加者を巻き込むことで「アートによるまちづくりの可能性」をさらに広げるものとなった。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者、概算で1500名 ・参加団体、20団体 ・運営協力団体、15団体 ・想定を超える以上の規模での開催となり、こうした取り組みへの関心と需要の多さを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント規模に対して予算が不十分であるため、警備など運営面での安全管理に不安を残す結果となった。 ・街ナカアートをひとつのコンテンツとして、中原平和公園での定期開催や、他地域での開催も視野に入れ、次年度以降の事業継続につなげたい。



昼の部 ステージプログラム



昼の部 公園広場でのWS



夜の部 完成したスタードーム

団体名	特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート
事業名	畑の仕掛け絵本 ～農×産×学×保の食育プロジェクト～

<p>目的・背景</p> <p>都市の中で暮らす子どもたちはなかなか農業に触れる機会がない。野菜の本当の旬の季節っていつなんだろう・・・スーパーに行けばどの季節でも手に入る今の世の中だからこそ、幼児期より「食育」を親子で学ぶことのできる工夫が必要であるのではないかと、農業と保育の専門家が共に「子どもたちの食育」について考える。</p> <p>農業者・保育士・栄養士と和光大学の学生が協力し、野菜の本当の旬がわかる絵本の制作を行う。</p>	<p>事業の効果</p> <p>今年度は麻生区役所こども支援課と連携し、まずは 300部を麻生区の保育園に配布した。「絵本は3歳から5歳を対象に制作したのですが、0歳から楽しむことができた」「川崎市には特産野菜があり、名前を覚えられ興味を示していた」「絵本で学び実際に畑に行ってみよう」と、嬉しい結果の報告をいただいた。</p> <p>予定していた以上の反響があり、今後も都市のなかで過ごす子供たちの「食育」に取り組んでいきたいと思います。</p>
<p>実施結果</p> <p>農業者・保育士・栄養士と和光大学の学生が協力し、12ヶ月の川崎の野菜と季節の行事を組み合わせ、影絵を使用した畑の絵本を1000部制作した。</p> <p>麻生区役所こども支援課の協力により今年度は300部の配布を行なった。また、コラボ先の保育園で完成した絵本の読み聞かせを開催。</p> <p>次年度以降に農業教育を和光大学地域連携研究センターと進めていく予定でしたが、今年度より取り組んだ。取り組み内容は、野菜の育ち方の紙芝居を制作し地域の幼児に農業体験とともに読み聞かせを行なった</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>布予定でしたが、配布には川崎市こどもみらい局が協力してくれることになりました。しかし川崎市の保育園の数は制作した絵本以上あり、平等に配布するには部数が足りなかったことがわかりました。そのため次年度以降に自費にて増刷しさらに配布先を広げていきたいと考える。</p> <p>また、次年度以降は当事業で制作した絵本を活用しながら、農業に興味を持った保育園からの農業教室への受け入れをNPO法人岡上アグリ・リゾートが行い農業教室を開講する。農業教室を開講後は農業保育の実践を行っていく。</p>



完成した野菜の絵本



完成した絵本を楽しむ園児達



和光大学の学生による紙芝居(農業体験)

団体名	西暦 2020 年の多摩川を記録する運動実行委員会
事業名	西暦 2021 年の多摩川を記録する運動～ヒトは多摩川で何をしているか？ 一斉市民調査～

<p>目的・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「西暦 2020 年の多摩川を記録する運動」は、2000 年より 10 年毎に行ってきた多摩川流域の住民団体、個人による調査活動である。この運動は、多摩川で人がどんな遊びや利用をしているか、年 4 回の予め決めた日時に一斉に調査し、その結果を集計、整理し、レポートとしてまとめ公表する活動である。 ・多摩川は日本の河川の中で一番多く利用者がおり、利用圧や川ごみ、自然環境への影響などが顕在化しているが、河川管理者等はその実態調査を行っていない。本事業は、流域市民のマパワーやネットワークによって、多摩川のその時々を記録し、将来的に多摩川の自然と利用の共存を図るうえでのアーカイブとすることを目的としている。 	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流域市民自らの記録、調査により、多摩川の自然と利用の共存を図るうえで、今後の環境保全のための利用の在り方を検討、提案していくための資料としたい。 ・今回、調査員として参加した大学生から、調査を通じて多摩川の環境に関心を持ち、河川敷の人の利用や堤防植生など、多摩川を調査、研究のテーマやフィールドにしたいとする声が出てきた。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加を表明した調査員は 54 名(うち学生 19 名)で、計画どおり年 4 回(2021 年 4/25, 7/25, 11/24, 2022 年 1/23)、左右岸の河口より 0～55 km までの調査を実施した。そのうち、当初から調査不能とした地区(無堤区間、山付き区間、住居区間等)は欠測とした。 ・また、人の利用調査とあわせ調査区間の写真は、各調査区間に設置されているキ口杭(国土交通省による河口からの距離表示杭)を中心としたパノラマ写真や利用の様子、目立った植物等を撮影、記録した。 ・調査結果は現在整理中であるが、各回とも河川敷では観客も含めた野球、サッカー等スポーツ利用が圧倒的多数であった。 ・その他目立った利用として、堤防上の自転車(スポーツサイクル他)、ランニングが、前回 2000 年度に比べ増加したようである。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西暦 2000 年、2010 年、2020 年(2021 年度実施)の同様調査の結果をもとに、(仮)「多摩川河川敷地の利用 50 年史」をテーマにレポートを作成したいと考える。 ・こうした市民による調査、研究を、河川管理者、占有者に啓発し、今後の河川空間のあり方を考える機会になればと考える。 ・今回の参加者から、西暦 2030 年の調査の要望が出ているが、どう次世代につなげていくか、その方策を検討したい。



調査担当区域(キ口杭)での記念撮影



河川敷利用調査の様子



調査担当区域(キ口杭)での記念撮影

団体名	さんごのからだ
事業名	妊娠・出産が女性の体力・身体機能に関わる影響の検証～体力測定を用いて

目的・背景	事業の効果
<p>スポーツ庁の調査によると30代女性の体力、運動能力は低下傾向にある。その背景として、妊娠や育児により、運動機会を持ちにくいことが予想される。川崎市内で過去に行った「からだケア講座」(Women's Body Labo 主催)でも参加者の50-60%が体の不調(肩こり、腰痛、尿もれなど)を抱えていた。しかし産後の女性の体力や身体機能の基礎データはない。今までの活動では、からだケアの必要性を訴えていたが、参加する女性の訴えも漠然としていた。コラボ50の事業を通して①産後女性の心身の状況を見える化すること、②得られた客観的なデータを元に産後女性の周囲の関係者も現状を具体的に知る機会を提供すること③産後女性のケアの必要性や対策を考える根拠とし、運動機会獲得の推進へ繋げることで、結果として元気な母親や子どもたちが増えることを目的とする。</p>	<p>①産後女性の体力・身体機能の実態把握 コロナ禍の影響を受けたが、61名の協力を得て、体力測定を実施できた。川崎ではイベントに参加することで、他団体との協働により測定者が増え、今後の測定機会を増やす足掛かりとなった。</p> <p>②成果の報告 3月に報告会を兼ねたフォーラムを開催し、オンラインも通じて幅広い参加者から好評を得た。フォーラムに先立ち、当事者・支援者へのアンケート調査を実施し、今後の展開に役立つ意見を得られたことをフォーラムで報告した。またフォーラムの内容をHPに掲載したことでアクセス数が増えるなど、関心を持つ人を増やすことが出来た。 測定結果をまとめて複数の学会で発表し、医師や助産師など他職種からも賛同を得られた。</p> <p>③啓発リーフレットの作成 本事業の成果物として、測定結果を盛り込んだ、本プロジェクトの内容を周知するためのリーフレットを作成した。フォーラムから配布を開始した。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>①産後女性の体力・身体機能の実態把握 コロナ禍の影響を受けたものの、川崎で11回、神戸で7回、体力測定を実施した。その結果61名の産後女性が体力測定に参加した。コラボ50参画以前のデータと合わせた分析により、全数に「痛み」の経験があり、半数が「ロコモティブシンドロームの疑いあり」の状態にあるという結果が得られた。</p> <p>②フォーラムの開催 3月6日に「さんごのからだフォーラム」を川崎・神戸で同時開催した。まん延防止対策下のため、オンラインを併用し、会場の参加者が10名、オンライン参加54名、SNSでのアーカイブ配信の視聴73回(3/21現在)、体力測定参加者5名だった。</p> <p>③啓発リーフレットの作成 本事業の成果物として、体力測定の結果や本プロジェクトが目指すこと、などをまとめたリーフレットを作成し、1000部印刷した。(川崎、神戸で各500部を広報に使用する。)</p> <p>④学術大会での発表 日本体力医学会、日本女性医学学会、World Physiotherapy Congress2021にて発表し、産後の女性に関わる医療専門職に向けて発信した。</p>	<p>・コロナ禍の影響で、目標の測定数に達していないが、広報をチラシ配架からSNS使用に切り替えることで参加者が増えることがわかったため、より効果的な広報の方法を引き続き検討する。</p> <p>・川崎と神戸での二拠点で実施しているが、神戸での測定数が伸び悩んでいる。引き続きマンパワーや測定機会の確保について改善を図る。</p> <p>・地域団体や行政との連携に関して、イベントへの参加、フォーラムの開催やアンケート実施の際に関係団体より助言を頂くなど、本事業を知り、必要性を理解を得る機会となったため、次年度は、さらに協働に向けた機会を模索していく。アンケート結果より、体力チェックの機会として乳幼児健診等での実施の要望があったため、今後行政への働きかけを検討する。</p> <p>・今後、持続的な健康支援に本事業をつなげるため、市民の中から簡単な運動指導のアドバイスができる「さんごのからだサポーター」養成講座を実施する。この取り組みにより、市民同士のコミュニティ拡大と健康増進を図っていく。</p>



体力測定の様子



フォーラム:報告会の様子



リーフレットの作成

2021年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

U-25 チャレンジ応援助成

団体名	かわさき若者会議 広報委員会
事業名	川崎市における若者の連携・連帯の実現

目的・背景	事業の効果
<p>①地域課題や社会課題に興味関心のある若者同士のプラットフォームの創出</p> <p>②定期的な会合やイベントの実施における、若者の交流や連携の促進</p> <p>③25 歳以下の若者におけるエンパワメント向上</p> <p>④川崎市内全般に関心を持つ若者の増加</p> <p>→年間を通して会合を開催。集結した若者により、地域間の 25 歳以下における課題を発見、その問題解決への行動を起こしていく</p> <p>→会合認知拡大に向け、広報委員の立ち上げ</p>	<p>年間を通して会合を開催した結果、地域課題や社会課題に興味関心のある若者が 4 月の発足時は 20 人前後だったが、今月 25 日現在で 110 人がかわさき若者会議のメンバーとなった。</p> <p>これまで年間 52 回以上の会合やイベント実施により、市内若者の繋がりの強化を行ってきた。</p> <p>課題としていた広報については、市内若者の活動認知こそ会合認知拡大に直結するといった方針により、行政や企業からのヒヤリング会開催などの活動も積極的にオンライン・オフライン共に発進の強化、またメンバー内広報にも力を入れて行なった結果が川崎市内全般に関心を持つ若者の増加につながった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>認知させるための施策を2パターン行なった。</p> <p>① 交流会である「セッション」のための広報(チラシ作成)</p> <p>② 地域と関わるきっかけ作りとしての「イベント出店・企画提案」</p> <p>これまでの取り組みとして会合を 4 月、8 月で定期的に「セッション」という名前で交流会を開いてきたものの、交流会以外の活動である「イベント出店・企画提案」を増やすことで、交流会開催以上に、多世代に渡る関係人口の増加に繋がり、結果として認知してもらい機会が増加とアプローチの層が広がった。</p> <p>また同時的にチラシ配布や SNS などの広報活動を行うことで新規メンバーの参加率も上がり、メールや SNS の DM 宛にお問合せ件数が広報に力を入れる以前より3倍となった。</p>	<p>今年度通念の活動を通じて一つの気づきがあったように、単に広報物作成に力を入れていくのではなく、地域のイベントや企画などを通じて、活動を通した発信を行なっていくことで発信力の加速を体感することができた。</p> <p>そのため、今後は今年度1年間を通して培ってきた地域の多世代の繋がりや機会を通して、更なる「若者」そのものの認知拡大に向け、機会を活用した広報に力を入れていく。</p> <p>また、下の世代に受け継いで行くために中学生の参加率を高めるために、(現在 2%)地域間の連携を通して口コミでも広がっていくような広報と、入りやすい環境づくり、また関わりやすいきっかけを提案し続けていきたい。</p>



第2回かわさき若者会議セッションの様子



無印良品と企画ワークショップの様子



野菜ハンコワークショップの様子

団体名	川崎ワカモノ Lab
事業名	地域と若者を繋ぐきっかけ作り

<p>目的・背景</p> <p>川崎には地域のことを知らないまま、興味を持たないまま大人になっていく若者が多いと感じている。川崎は面白い地域だからこそとても勿体無いと感じている。そしてこの背景には、特に家と学校の見学だけでは地域の情報に触れる機会が少ないことや、同年代の若者からの発信が少ない点があげられると思う。</p> <p>そのため私たちは、若者に向けた地域の情報発信をする。さらに、川崎市は広域なため、エリアによってさまざまな文化・特徴があり、私たち自身も訪れたことのない場所や知らない川崎の一面がたくさんある。そんな川崎に興味を持つきっかけとして実際にその場所へ赴き、同じ地域に住む仲間と歩くフィールドワークを企画する。</p>	<p>事業の効果</p> <p>地域で活躍する大人の背景を知ることで、取材をしている私たち自身も自分の活動や人生を考えることに繋がった。読者からは、「こんな人が川崎にいることを初めて知った」などとコメントをもらっている。</p> <p>フィールドワークでは、参加人数は想定よりも少なかったものの、臨海部に訪れたことがなかった参加者もあり、川崎の新しい魅力を知る機会となった。また、歩きながら自然と同じ地域に住む仲間と近況を報告したり、進路を相談したりする場にもなり良い時間になったと考えている。</p>
<p>実施結果</p> <p>地域で活躍する大人計 7 名にインタビューを行い、学生時代の様子から現在の活動に至った経緯を取材し SNS プラットフォームの note に掲載した。(現在 3 名分掲載済)</p> <p>2022 年 3 月 30 日にこの春、新しく開通した「多摩川スカイブリッジ」を歩くフィールドワークを実施した。春のカメラ散歩と題して募集をかけたところ、計 3 名が参加し、一緒に多摩川スカイブリッジとその周辺を歩いた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>正直、私たちが届けたい層に note の記事が届いているかはまだ自信がない。そのため、今後は記事を更新しつつ地域のことに関心がない若者の層にも届けるべく、学校や若者世代が立ち寄りそうな施設などに作成したフリーペーパーなどを置いてもらうなどして積極的にアピールをしていきたい。</p> <p>また、フィールドワークを行うことは若者の地域への愛着形成にも効果的だと実感したため、2 回目 3 回目と川崎の訪れたことのない場所を歩いてみたい。今回は新型コロナウイルスの観点からもあえて人数を少なくし、結果的に初対面の参加者がいなかったが次回以降は幅広く広報を行いたいと考えている。</p>

		
<p>note にて投稿している記事</p>	<p>取材の様子</p>	<p>多摩川スカイブリッジを歩く様子</p>

団体名	起立性調節障害への理解を広める会
事業名	起立性調節障害への理解を広める活動

<p>目的・背景</p> <p>続いてOD 発症率が一番高い小中学生に向けて、紙媒体での認知拡大方法を考えた。 紙媒体を使うことで、SNS やインターネットの利用をしていない小中学生にも確実に発信できる。</p> <p>〈内容〉 助成金を利用してチラシを制作し、学校や公共施設内に設置、配布してもらう ・ターゲット→小中学生 ・配布場所→学校や地域の施設 ・デザイン→堅苦しいイメージが彷彿されないような柔らかいデザイン ・内容 ①起立性調節障害のメカニズム ②起立性調節障害チェック表 ③私たちが伝えたいこと</p>	<p>事業の効果</p> <p>〈パンフレットを読んだ場合の効果〉 OD の症状を漫画で説明しているため説明しているため、病氣自体を知らない小中学生でも、ODの存在に気づくことができる。 そうすることで、自分がODに当てはまる症状が発症したとしても、早急に対応ができる。 また、周りの人の中に、OD の症状を持つ人がいた場合に、気づくことができる。</p>
<p>実施結果</p> <p>作成物:パンフレット →専修大学との連携事業による成果物 ・川崎市内の子ども文化センター53カ所への設置 ・計 2000 部の印刷 申請時は、自分たちでパンフレットを制作し、配布する予定であったが、専修大学との連携事業の提案があったことと、大学受験により活動時間が制限されることから、専修大学と共同作成したパンフレットを配布する運びとなった。 また、小中学生に興味を持って読んでもらうためにどうすべきか、工夫した。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>今回は小中学生をターゲットとしたパンフレットを作成し、川崎市内の子ども文化センターに設置してもらうこととなった。しかし、設置するだけでは、病氣に興味がある人にしかパンフレットが届かないため、新たにどうパンフレットを配布してもらうか、考案する必要がある。 また、今後は、パンフレットのみならず、継続的に効果が期待できるポスターの制作も行っていきたいと考えている。</p>

		
<p>パンフレット表面</p>	<p>パンフレット裏面</p>	<p>パンフレットを紹介する動画を作成し、その際の一場面を画像化</p>